

愛知学院大学短期大学部
2024 年度学生生活アンケート結果

愛知学院大学学生委員会および学生部学生課は、「本学での学生生活の現状を把握し、今後の学生生活をより充実したものにするために、本学としてどのようなことをしなければならないかを知るために」、平成元年（1989 年）から、後 3 年もしくは 4 年ごとに「学生生活アンケート」を実施している。

愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科においても、完成年度を迎えた平成 20 年（2008 年）度に第 1 回の「学生アンケート」を実施し、その後、平成 25 年（2013 年）度に第 2 回、平成 28 年（2016 年）度に第 3 回、令和元年（2019 年）度に第 4 回、令和 3 年（2021 年）度に第 5 回、令和 4 年（2022 年）度に第 6 回、令和 5 年（2023 年）度に第 7 回、今回、第 8 回、令和 6 年（2024 年）度アンケートを実施した。なお、アンケートは、令和元年（2019 年）度より IR・キャリアサポート委員会によって実施され、また、調査対象に専攻科が追加された（全学年のデータは専攻科生を含む）。さらに、令和 3 年（2021 年）度からは毎年実施することとなった。

従来のアンケートは、教室内でアンケート用紙に回答する形で実施されてきたが、令和 3 年（2021 年）度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により教室内での実施が困難となり、初めて Forms を利用したオンラインアンケートとなった。令和 4 年（2022 年）度、令和 5 年（2023 年）度、令和 6 年（2024 年）度も同様の方法で実施した。令和 6 年（2024 年）度の実施期間は、令和 6 年（2024 年）12 月 16 日～令和 7 年（2025 年）1 月 17 日である。

アンケートの設問事項は平成 25 年（2013 年）に愛知学院大学学生委員会および学生部学生課によって行われた「学生生活アンケート」に準じて設定されたが、その後、短期大学部の実情や時代背景等を考慮して、見直し変更している。令和 3 年（2021 年）度のアンケート項目は、概ね令和元年（2019 年）度に準じているが一部変更した。令和 4 年（2022 年）度、令和 5 年（2023 年）度は、令和 3 年（2021 年）度のアンケート項目と同じ内容での実施であった。令和 6 年（2024 年）度は、令和 3 年（2021 年）度に準じているが、一部選択肢を変更した。さらに、令和 6 年（2024 年）4 月から楠元キャンパスが敷地内禁煙となったことから、敷地内禁煙に関する設問を削除した。

令和 6 年（2024 年）度アンケート実施時の在籍者数は、1 年生 109 名、2 年生 106 名、3 年生 102 名、専攻科生 7 名である。回答が得られた学生数は、1 年生 104 名（回答率 95.4%）、2 年生 91 名（同 85.8%）、3 年生 92 名（同 90.2%）、専攻科生 6 名（同 85.7%）で、全体で 90.4%の回答率であった。令和 4 年（2022 年）度の回答率が各学年とも低かったため、令和 5 年（2023 年）度のアンケート実施からは、全学年とも講義終了時に教室内で、Forms を利用したオンラインアンケートを行った。なお、当日の欠席者に対しては、令和 7 年（2025 年）1 月 17 日までに回答するように指示したが、令和 6 年（2024 年）度は、令和 5 年（2023 年）度に比べ、全学年とも低い回収率となった。

コロナ禍での学生生活は、かつて経験した事のないものであったが、2023 年 5 月 8 日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけも 5 類感染症に移行され、令和 6 年（2024 年）度は、流行前と同様な「学生生活」を送ることができたのではないかとと思われる。

1. 基本情報

[問 3]現在の住居形態を選択してください。

1. 自宅
2. 自宅外（下宿等）

問 3 表 全学年の選択肢別割合（％）

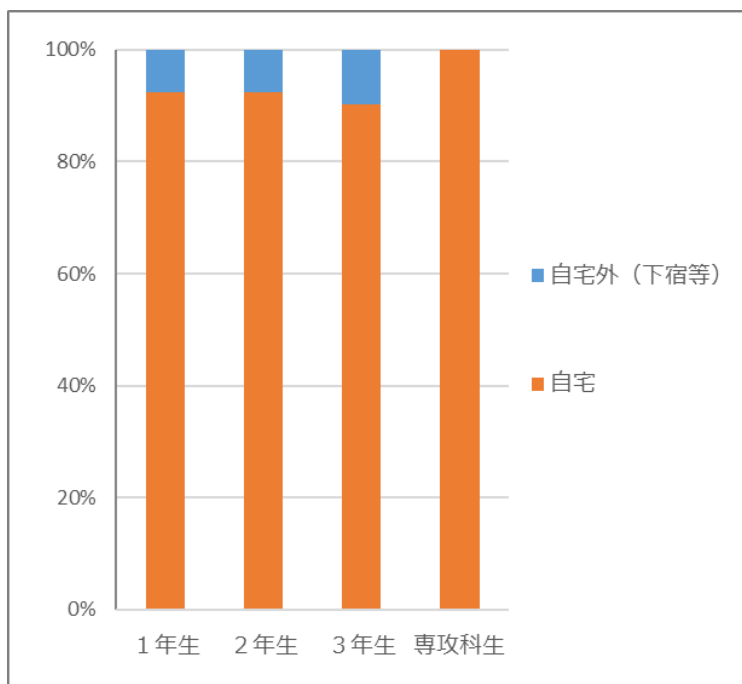
回答内容	今回	前回
1. 自宅	91.8	88.3
2. 自宅外（下宿等）	8.2	11.7
合計	100	100

この設問は、学生の住居形態について、回答を求めた。

全体としては、「自宅」が圧倒的に多く、前回と比較しても、ほとんど変化がみられなかった。

学年別では、専攻科生は全員が「自宅」であった。1年生、2年生、3年生では「自宅外」は同程度で少なかった。

現在の居住形態



[問 4]授業料等の学費は誰が支払っているか選択してください。

1. 全額家庭から払っている
2. 半分以上は家庭から払っている
3. 全額奨学金で払っている
4. 半分以上は奨学金で払っている
5. 全額自分のアルバイト代で払っている
6. 半分以上は自分のアルバイト代で払っている
7. その他

問 4 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 全額家庭から支払っている	76.1	73.7
2. 半分以上家庭から支払っている	8.2	9.5
3. 全額奨学金で支払っている	4.4	3.5
4. 半分以上奨学金で支払っている	9.6	11.4
5. 全額自分のアルバイト代で支払っている	0.7	0.6
6. 半分以上は自分のアルバイト代で支払っている	0.7	0.9
7. その他	0.3	0.3
合計	100	100

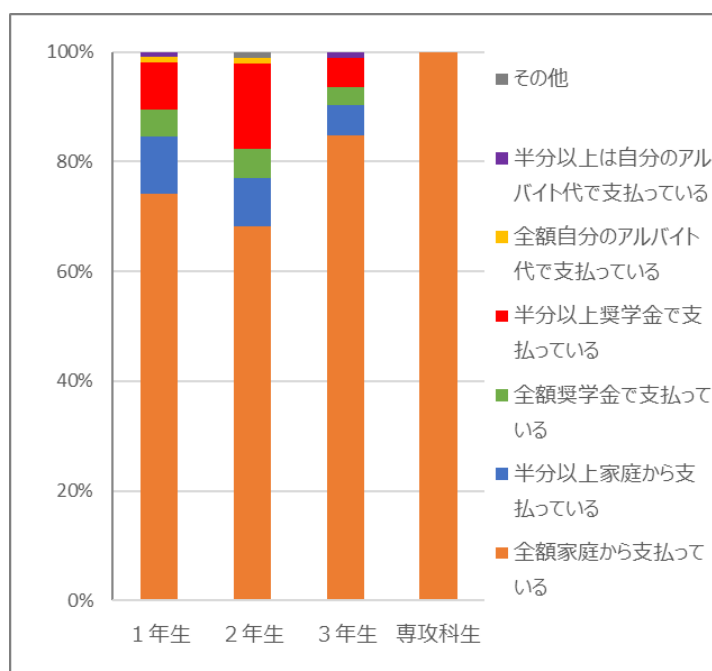
この設問では、学費の支払い者は誰かについて回答を求めた。

全体としては、「全額家庭から支払っている」学生が約 76.1%を占める。次いで、「半分以上奨学金で支払っている」、「半分以上家庭から支払っている」、「全額奨学金で支払っている」の順である。

前回と比較すると、「奨学金」（「全額奨学金で支払っている」＋「半分以上奨学金で支払っている」）で払っている学生の割合は、前回 14.9%，今回 14.0%とほぼ同程度である。

学年別にみると、「全額家庭から支払っている」学生は 1 年生 74.0%，2 年生 68.1%，3 年生 84.8%，専攻科生 100.0%と、3 年生と専攻科生で家庭への依存度が高いことがわかる。一方、「全額あるいは半分以上奨学金」で支払っている学生の割合は、1 年生 13.5%，2 年生 20.9%，3 年生 8.7%，専攻科生 0.0%で、専攻科生の奨学金への依存度は最も低く、経済的に恵まれた家庭環境が比較的多いと思われる。

学費の支払者



[問 5]家庭からもらっている月あたりの金額を選択してください。

1. もらっていない
2. 30,000 円未満
3. 30,000～50,000 円未満
4. 50,000 円以上

問 5 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. もらっていない	68.6	70.9
2. 30,000円未満	20.5	18.7
3. 30,000円以上50,000円未満	6.5	5.7
4. 50,000円以上	4.4	4.7
合計	100	100

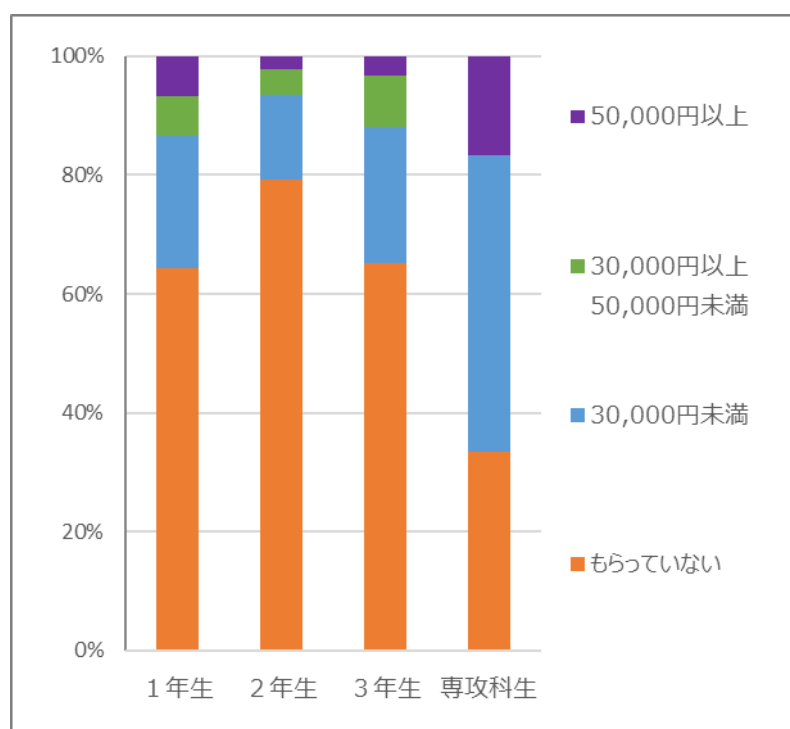
この設問では、家庭からもらう 1 ヶ月あたりの小遣いの額について回答を求めた。

全体としては、小遣いを「もらっていない」学生が 68.6%を占め、もらっている学生より多い。もらっている学生も「30,000 円未満」が 20.5%で、89.1%の学生は小遣いを「もらっていない」か、もらっていても「30,000 円未満」である。

前回と比較すると、小遣いをもらっていない学生は同程度である。

学年別にみると、「もらっていない」学生は 1 年生 64.4%，2 年生 79.1%，3 年生 65.2%，専攻科生 33.3%で、1 年生と 3 年生では学年による差はなかったが、1、3 年生に比べ 2 年生でやや多く、専攻科生で少なかった。

小遣いの金額



[問 6]平均睡眠時間を選択してください。

1. 3 時間未満
2. 3 時間以上 5 時間未満
3. 5 時間以上 7 時間未満
4. 7 時間以上 9 時間未満
5. 9 時間以上

問 6 表 全学年の選択肢別割合（％）

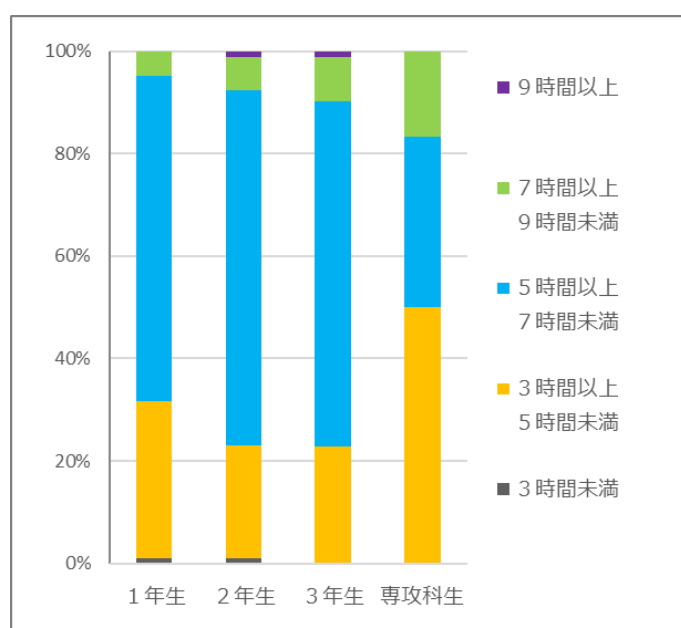
回答内容	今回	前回
1. 3 時間未満	0.7	0.3
2. 3 時間以上 5 時間未満	25.9	24.4
3. 5 時間以上 7 時間未満	65.9	66.8
4. 7 時間以上 9 時間未満	6.8	8.5
5. 9 時間以上	0.7	0.0
合計	100	100

この設問では、普段の睡眠時間について回答を求めた。

睡眠時間は「5 時間以上 7 時間未満」が最も多く 65.9%，次いで「3 時間以上 5 時間未満」25.9%，「7 時間以上 9 時間未満」6.8%であり、前回と同様の傾向がみられる。

学年別に比較すると、睡眠時間が比較的短い「3 時間以上 5 時間未満」は、1 年生 30.8%，2 年生 22.0%，3 年生 22.8%，専攻科生 50.0%で、比較的長い「7 時間以上 9 時間未満」は、1 年生 4.8%，2 年生 6.6%，3 年生 8.7%，専攻科生 16.7%である。睡眠時間の短い学生と長い学生は専攻科生に多い。

平均睡眠時間



2. 通学状況

[問 7]現在どこに住んでいるか選択してください。

1. 名古屋市内
2. 名古屋市以外の愛知県
3. 岐阜県
4. 三重県
5. 静岡県
6. その他

問 7 表 全学年の選択肢別割合 (%)

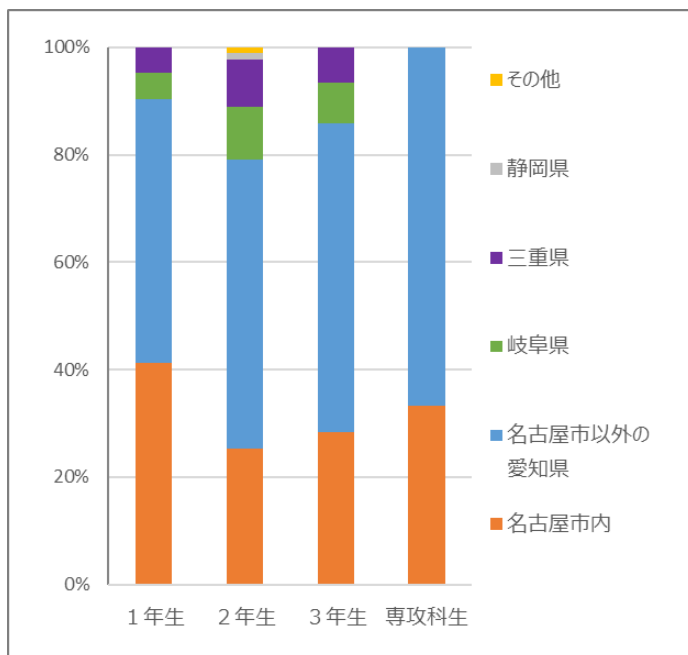
回答内容	今回	前回
1. 名古屋市内	32.1	31.6
2. 名古屋市以外の愛知県	53.6	54.4
3. 岐阜県	7.2	7.0
4. 三重県	6.5	6.3
5. 静岡県	0.3	0.3
6. その他	0.3	0.3
合計	100	100

この設問では、どこに住んでいるかについて回答を求めた。

全体としては、「名古屋市以外の愛知県」に住む学生が半数以上を占め、次いで「名古屋市内」、「岐阜県」、「三重県」の順である。この傾向は、前回とほとんど同じである。

学年別に見ると、「名古屋市内」に住む学生は、1年生 41.3%、2年生 25.3%、3年生 28.3%、専攻科生 33.3%と、1年生に多い。逆に、「岐阜県」、「三重県」に住む学生は2年生にやや多く、「愛知県」に住む学生は専攻科生で 100.0%、1年生 90.4%、2年生 79.1%、3年生 85.9%であった。

現在の住所



[問 8]次の中から現在利用している通学手段を選択してください。(複数回答可)

1. 電車
2. バス
3. 自転車
4. 徒歩
5. その他

問 8 表 全学年の選択肢別割合 (%)

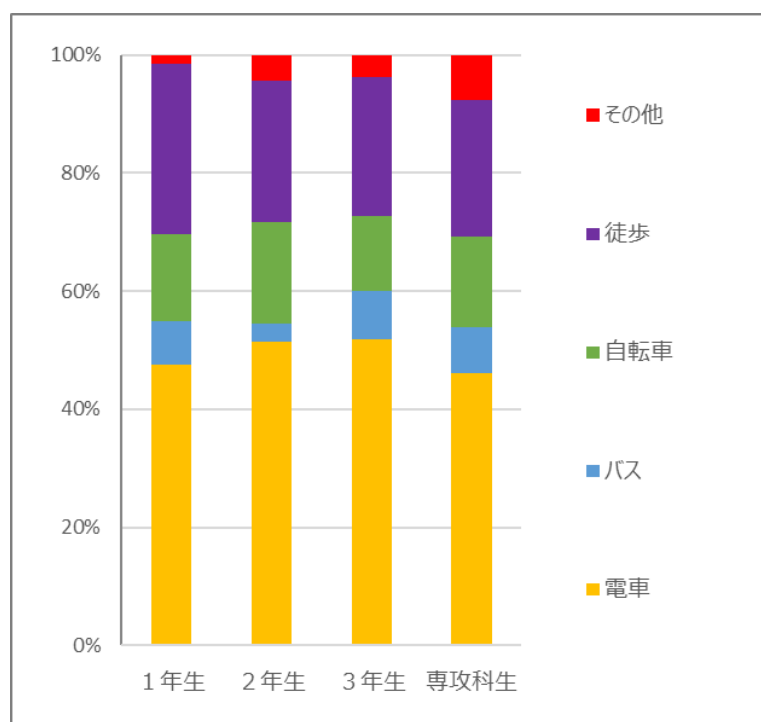
回答内容	今回	前回
1. 電車	50.1	50.1
2. バス	6.3	6.8
3. 自転車	14.9	14.8
4. 徒歩	25.5	26.5
5. その他	3.2	1.8
合計	100	100

この設問では、キャンパスまでの通学手段について回答を求めた。複数回答が可能であり、選択肢数は1年生 191、2年生 163、3年生 158、専攻科生 13、合計 525 である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としては、電車が最も多く、次いで、徒歩、自転車、バスの順であり、前回と同様の傾向である。

学年別にみると、電車は1年生 47.6%、2年生 51.5%、3年生 51.9%、専攻科生 46.2%と、1～3年生と専攻科生ではほぼ同じ割合である。「徒歩」は1年生 28.8%、2年生 23.9%、3年生 23.4%、専攻科生 23.1%で、1年生でやや多い。「自転車」は1年生 14.7%、2年生 17.2%、3年生 12.7%、専攻科生 15.4%で、3年生でやや少ない。

通学手段



[問 9]平均通学所要時間（片道）を選択してください。

1. 1 時間未満
2. 1 時間以上 2 時間未満
3. 2 時間以上

問 9 表 全学年の選択肢別割合（％）

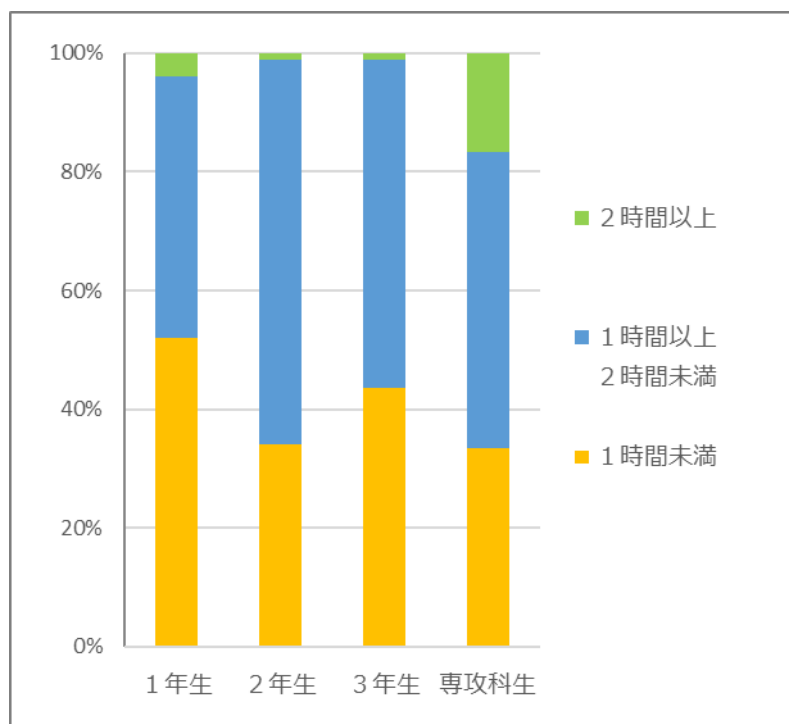
回答内容	今回	前回
1. 1 時間未満	43.3	44.3
2. 1 時間以上 2 時間未満	54.3	53.2
3. 2 時間以上	2.4	2.5
合計	100	100

この設問では、片道の通学時間がどれくらいかについて回答を求めた。

全体としては、通学時間が「1 時間未満」の学生が 43.3%、「1 時間～2 時間未満」が 54.3%と両方で 97.6%を占める。前回と、同様の結果である。

学年別にみると、1, 2, 3 年生, 専攻科生ともに、「1 時間未満」と「1 時間以上 2 時間未満」がほとんどであった。

通学所要時間（片道）



3. 大学生活

[問 10]授業以外で教員と話をすることはありますか。

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない
4. 全くない

問 10 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. よくある	4.1	3.2
2. ときどきある	25.3	25.9
3. ほとんどない	47.1	45.9
4. まったくない	23.5	25.0
合計	100	100

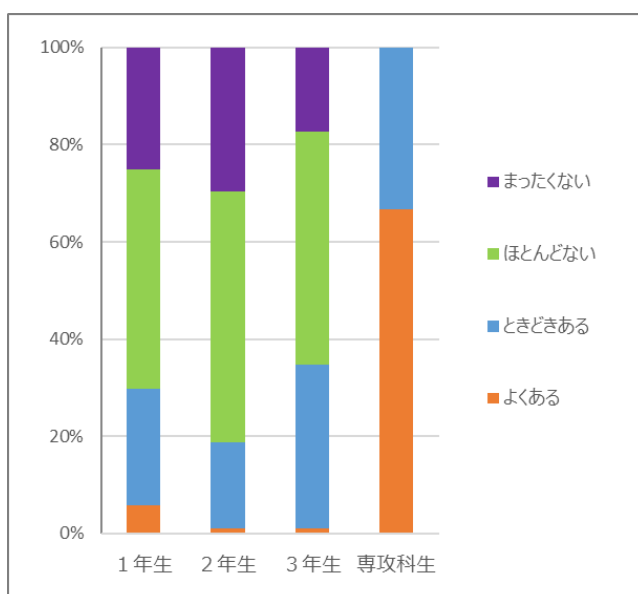
この設問では、授業以外でどのくらいの頻度で教員と会話をするかについて回答を求めた。

全体としてみると、教員との「会話がある」(「よくある」+「ときどきある」) 学生の割合は 29.4%, 「会話がない」(「ほとんどない」+「まったくない」) 学生は 70.6%である。

前回と比較すると、「会話がある」学生の割合と、「会話がない」学生の割合は同程度である。

学年別にみると、「会話がある」学生の割合は 1 年生では 29.8%, 2 年生で 18.7%, 3 年生では 34.3%, 専攻科生では 100.0%で、1～3 年生では、3 年生で最も多く、2 年生で少ない。3 年生になると、臨床実習、国家試験のための勉強、卒業研究など、教員と身近に接する機会が多くなり、授業以外でも教員との会話が増えると考えられる。また、専攻科生は 100.0%とすべての学生が授業以外で教員と会話をしている。専攻研究や専門診療科実習などで、教員と関わる機会が多いためだと思われる。

教員との会話の頻度



[問 11]昼食をおもにどこで食べるか選択してください。

1. 自宅（下宿含む）で食べる
2. 短大部棟講義室（空き教室）で食べる
3. 短大部棟2階マグネットラウンジで食べる
4. 薬学部棟1階学生ホールで食べる
5. 4号館学食で食べる
6. 月見坂テラス（末盛キャンパスにある）で食べる
7. 臨床教育研究棟の更衣室で食べる
8. 臨床教育研究棟1～6階のオープンスペースで食べる
9. 臨床教育研究棟2階にあるラーニングカフェで食べる
10. 学外の飲食店で食べる
11. ほとんど食べない
12. その他

問 11 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 自宅（下宿先を含む）	1.7	1.6
2. 短大部棟講義室（空き教室）	51.5	50.3
3. 短大部棟2階マグネットラウンジ	19.8	20.6
4. 薬学部棟1階学生ホール	1.7	3.2
5. 4号館学食	2.4	1.9
6. 月見坂テラス	2.7	6.3
7. 臨床教育研究棟更衣室	6.1	9.8
8. 臨床教育研究棟1～6階のオープンスペース	10.6	0.0
9. 臨床教育研究棟2階にあるラーニングカフェ	1.7	0.0
10. 学外の飲食店	0.0	0.0
11. ほとんど食べない	0.3	0.3
12. その他	1.4	4.4
合計	100	100

この設問では、昼食をどこでとるかについて回答を求めた。

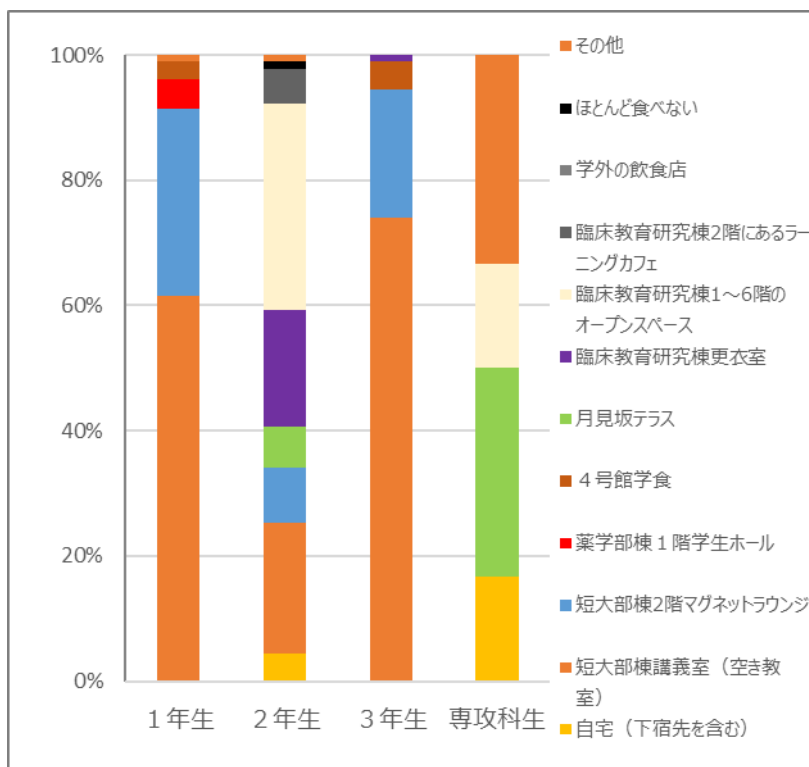
全体としては、昼食を「ほとんど食べない」学生はほとんどいない。昼食に関しても規則正しい食生活をしている。また、「学外の飲食店で食べる」学生もいない。食事を提供する学内施設は、楠元キャンパスには4号館学食があり、末盛キャンパスには月見坂テラスがある。しかし、最も多いのは「講義室」であることから、自宅からの弁当持参か、コンビニなどで購入した弁当を利用していると思われる。もちろん、食事を提供する施設においても弁当の利用はできる。

本学科は、1年生、2年生の春学期、3年生の秋学期は楠元キャンパスで授業および基礎実習を、2年生の秋学期、3年生の春学期、専攻科生は主に歯学部附属病院で臨床実習を行っているため、昼食をとる場所は楠元キャンパスと末盛キャンパスでは異なる。楠元キャンパスでは、「講義室」で昼食をとる学生が最も多く、次いで、「短大部棟2階マグネットラウンジ」、「4号館学食」の順であり、この3カ所でほとんどの学生が昼食をとっている。「薬学部棟1階学生ホール」も、人数は少ないが、利用者がいる。4号館食堂は食事を提供できるようになっているが、利用者は少ない。主に歯学部附属病院で臨床実習を行っている期間は、多くの学生が「臨床教育棟1～6階オープンスペース」、「歯学部附属病院更衣室」で昼食をとっている。また、「自宅（下宿を含む）」で昼食をとる学生は前回とほぼ同程度で少ない。

学年別に見ると、「講義室」を利用する学生は、1年生 61.5%、2年生 20.9%、3年生 73.9%、専攻科生 0.0%であり、

「短大部棟2階マグネットラウンジ」を利用する学生は、1年生29.8%、2年生8.8%、3年生20.7%、専攻科生0.0%である。「講義室」と「短大部棟2階マグネットラウンジ」は2年生の利用が少ない。また、「臨床教育棟1～6階オープンスペース」を利用する学生は2年生で33.0%と多い。これは、アンケートを取った時点で2年生が臨床実習期間であったことが関係していると思われる。一方専攻科生は、臨床実習を行っている場合は「月見坂テラス」を利用し、楠元キャンパスにいる場合は専攻科専用の控室で昼食をとっている可能性が高い。

昼食の摂取場所



[問12] 学内の図書館情報センターをどの程度利用しているか選択してください。

1. ほぼ毎日利用している
2. 週に2～3日利用している
3. 1ヶ月に数日利用している
4. テスト前やレポート提出のときだけ利用している
5. ほとんど利用していない

問12表 全学年の選択肢別割合(%)

回答内容	今回	前回
1. ほぼ毎日利用している	0.0	0.0
2. 週に2～3日利用している	0.7	1.6
3. 1か月に数日利用している	1.4	1.6
4. テスト前やレポート提出のときにだけ利用している	13.0	15.8
5. ほとんど利用していない	85.0	81.0
合計	100	100

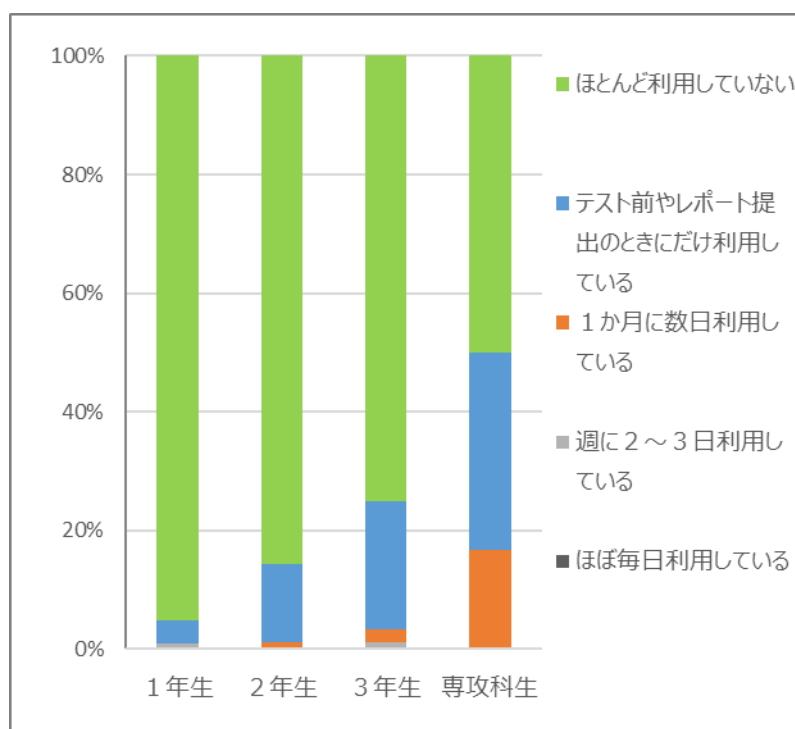
この設問では、図書館(歯学・薬学図書館情報センター)の利用頻度について回答を求めた。

全体としては、「ほとんど利用してしない」学生が8割以上を占める。利用する学生は「テスト前やレポート提出のときだけ利用している」学生が多く、定期的に図書館を利用している学生は少数である。

前回と比較すると、利用している学生は減少し、「ほとんど利用していない」が増加している。

学年別にみると、「ほとんど利用していない」学生は1年生 95.2%，2年生 85.7%，3年生 75.0%，専攻科生 50.0%と、1～3年生は、各学年とも約8割の学生が図書館を利用していない。利用する学生ではいずれの学年も、「テスト前やレポート提出のときだけ利用している」学生が多く、その割合も1年生 3.8%，2年生 13.2%，3年生 21.7%，専攻科生 33.3%であり専攻科生でやや高い。専攻科生に定期試験はないが専攻研究のため、図書館所蔵の専門書を参照する必要があると思われる。

図書館の利用頻度



[問 13] 1日の平均勉強時間はどのくらいか選択してください。

1. ほとんどしない
2. 約1時間
3. 約2時間
4. 約3時間以上
5. 特に決まっていない

問 13 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. ほとんどしない	36.9	36.4
2. 1 時間程度	30.4	28.2
3. 2 時間程度	10.9	12.0
4. 3 時間以上	2.7	3.2
5. 特に決まっていない	19.1	20.3
合計	100	100

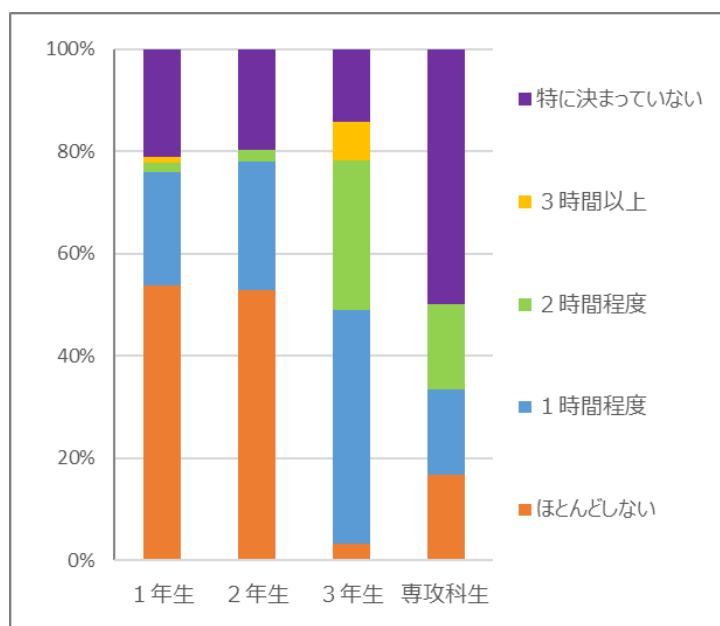
この設問では、1 日の平均勉強時間はどれくらいかについて回答を求めた。

全体としてみると、勉強時間は「1 時間程度」と「ほとんどしない」で 6 割以上を占めている。次いで、「特に決まっていない」が 19.1％である。3 時間以上勉強する学生は 2.7％しかいない。一方、「ほとんどしない」が 36.9％である。「特に決まっていない」学生は、試験前、レポート提出時などに勉強時間が増すのだと思われる。

前回と比較すると、「ほとんどしない」、「1 時間程度」が増加し、「2 時間程度」、「3 時間以上」、「特に決まっていない」が減少した。毎日の勉強習慣が身についていない学生が増加していると考えられる。

学年別にみると、「ほとんどしない」学生の割合は、1 年生で 53.8％、2 年生で 52.7％、3 年生で 3.3％、専攻科生は 16.7％である。3 年生で少なかった理由としては、今回のアンケート調査を行った時期が国家試験に向けて勉強を行っている時期であったためと思われる。

1 日の平均勉強時間



[問 14] 学内に学生相談室が開設されているのを知っていますか。

- 知っている
- 知らない

問 14 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 知っている	18.8	19.3
2. 知らない	81.2	80.7
合計	100	100

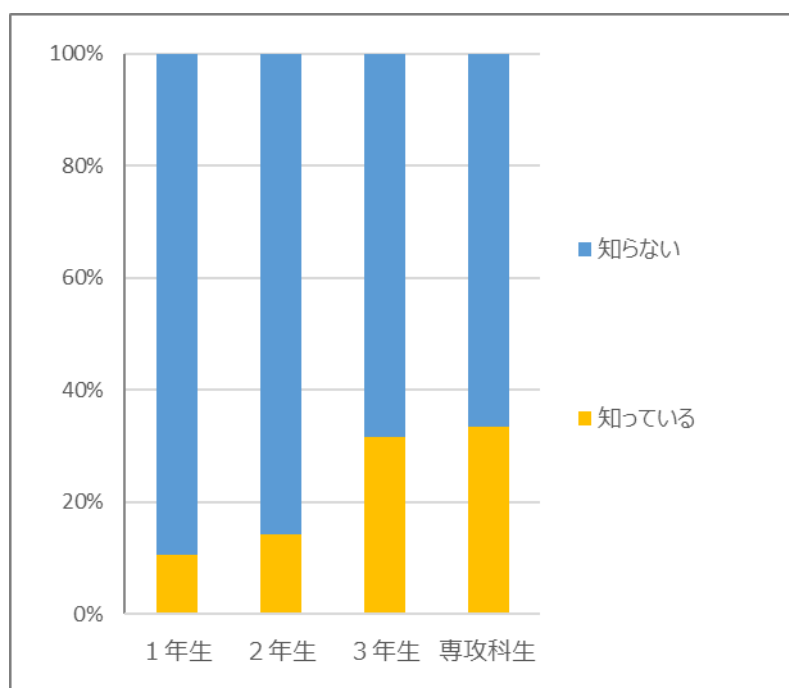
この設問では、学生相談室が開設されていることを知っているかについて回答を求めた。

学生相談室が開設されていることを「知っている」学生は約 2 割、「知らない」学生が約 8 割であった。学生相談室についての周知方法を検討する必要がある。

前回と比較しても同様の傾向である。

学年別にみると、「知っている」学生は、1 年生で 10.6%、2 年生で 14.3%と少ないが、3 年生では 31.5%と学年が上がるにつれて増加傾向にある。しかし、専攻科生では 33.3%と 3 年生と同程度であった。

学生相談室の認知度



[問 15]学生相談室の利用状況について選択してください。

1. 利用したことがあり、これからも機会があれば利用したい
2. 利用したことがあるが、これからは利用したくない
3. 利用したいが、行きにくい
4. 利用したことはないが、機会があれば利用したい
5. 利用したことがなく、今後も利用しないと思う

問 15 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 利用したことがあり、これからも機会があれば利用したい	0.7	1.9
2. 利用したことはあるが、これからは利用したくない	0.3	0.0
3. 利用したいが、行きにくい	0.7	2.2
4. 利用したことはないが、必要があれば利用したい	42.7	44.0
5. 利用したことがなく、今後も利用しないと思う	55.6	51.9
合計	100	100

この設問では、学生相談室の利用状況について回答を求めた。

全体としてみると、[問 14] で「知っている」と回答した学生が 18.8%いたのに対し、実際に利用したことがある学生

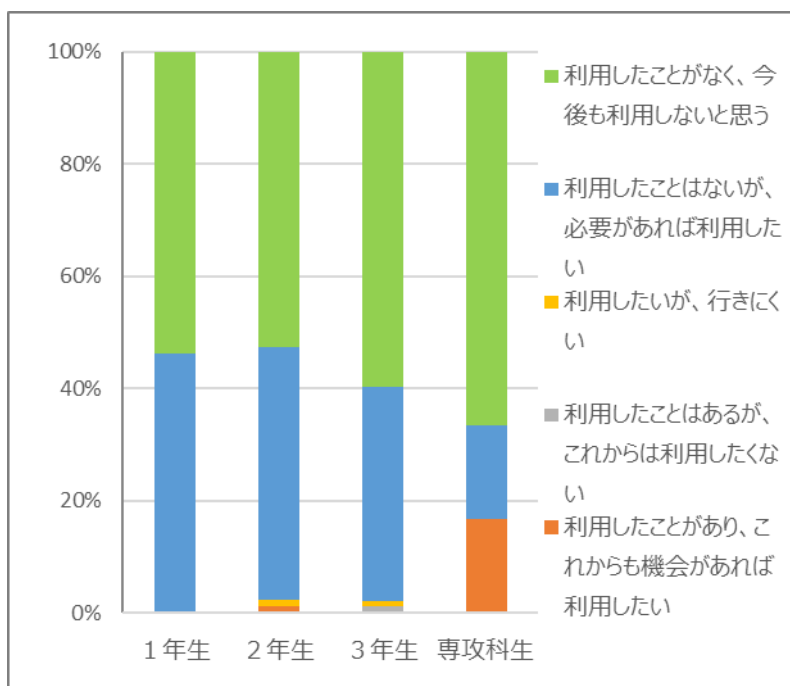
は1.0%に過ぎない。また、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」学生は42.7%いる。一方で、「利用したことがなく、今後も利用しないと思う」学生も55.6%と半数以上いた。

前回と比較すると、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」学生が減少し、「利用したことがなく、今後も利用しないと思う」学生が増加している。

このように、学生相談室は「利用したことがなく、今後も利用しないと思う」学生が50%以上いる。学生には、学生相談室が「気軽に行けるところ」、「個人のプライバシーが確実に守られるところ」、「様々な種類の相談が出来るところ」などであることを周知させる必要があると考えられる。

学年別にみると、「利用したことがあり、これからも利用したい」学生は、1～3年生および専攻科生ともに殆どいない。

学生相談室の利用状況



[問16]次の中から悩んでいることを選択してください。(複数回答可)

1. 勉学の問題
2. 就職等、将来の進路の問題
3. 対人・異性関係の問題
4. 家庭内の問題
5. 性格・能力の問題
6. 経済上の問題
7. 思想・生き方の問題
8. 健康の問題
9. その他
10. 特にない

問 16 表 全学年の選択肢別割合 (%)

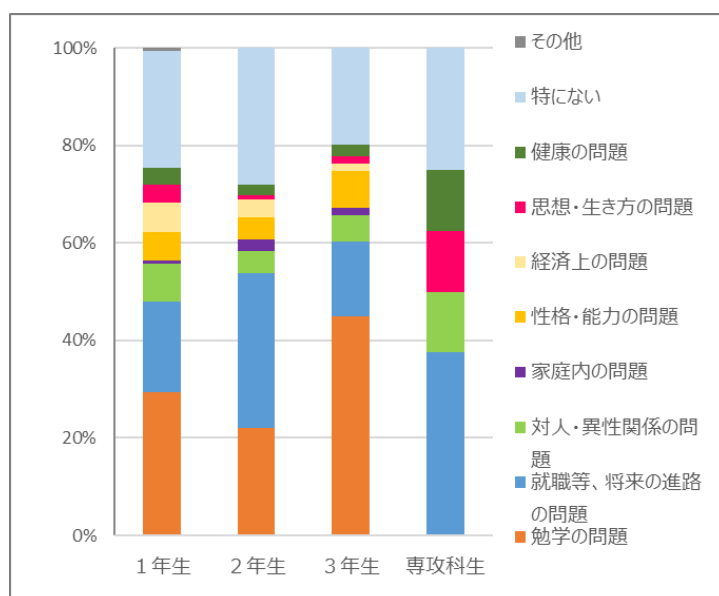
回答内容	今回	前回
1. 勉学の問題	31.3	29.3
2. 就職等、将来の進路の問題	21.9	18.9
3. 対人・異性関係の問題	6.2	6.6
4. 家庭内の問題	1.4	1.2
5. 性格・能力の問題	5.9	6.8
6. 経済上の問題	3.9	3.9
7. 思想・生き方の問題	2.3	3.3
8. 健康の問題	3.0	3.7
9. 特にない	24.0	25.9
10. その他	0.2	0.2
合計	100	100

この設問では、現在どのようなことを悩んでいるかについて回答を求めた。複数回答が可能であり、選択肢数は1年生167、2年生132、3年生131、専攻科生8、合計438である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としては、悩んでいることが「特にない」学生が24.0%いる。悩み事で多いのは「勉学の問題」および「就職等、将来の進路の問題」である。次いで「対人・異性関係の問題」、「性格・能力の問題」が続く。他の項目は5%以下である。前回と比較すると、「特にない」学生の割合がやや減少している。悩み事の順位は、前回とほぼ同一である。

学年別にみると、悩み事が「特にない」学生は1年生24.0%、2年生28.0%、3年生19.8%、専攻科生25.0%であり、2年生で最も悩みが少なくなっている。とくに、「勉学の問題」に悩む学生は、1年生29.3%、2年生22.0%、3年生45.0%、専攻科0.0%である。勉学に悩む学生はどの学年にもいるが、特に国家試験を控えている3年生が多くなっている。一方、専攻科生には勉学に悩む学生はいない。これは、国家試験から開放されたことや、元々、勉学に悩むことのない学生が専攻科に進学していることによるのかも知れない。「就職等、将来の進路の問題」に悩む学生は、1年生18.6%、2年生31.8%、3年生15.3%、専攻科37.5%と、特に2年生に多く3年生で減少し、専攻科生に増えている。2年生にはまだ歯科衛生士としての将来が鮮明ではないのに対し、3年生では迷うことのない明確な目標になって、さらに専攻科では学生であると同時に歯科衛生士としての経験を積んだことにより将来についての悩みが出てくるのかもしれない。

現在の悩んでいること



[問 17]誰に悩み事の相談をするか選択してください。(複数回答可)

1. 家族（身内）に相談する
2. 学内の友人に相談する
3. 学外の友人に相談する
4. クラブ・サークルの先輩に相談する
5. 教員に相談する
6. 事務職員に相談する
7. 学生相談室のカウンセラーに相談する
8. 学外の医師、カウンセラー等に相談する
9. 適当な相談相手がいない
10. その他

問 17 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 家族（身内）	34.9	33.5
2. 学内の友人	30.9	30.6
3. 学外の友人	29.8	31.0
4. クラブ・サークルの先輩	0.8	0.3
5. 教員	2.0	2.0
6. 事務職員	0.2	0.7
7. 学生相談室のカウンセラー	0.2	0.3
8. 学外の医師・カウンセラー	0.0	0.0
9. 適当な相談相手がいない	1.2	1.4
10. その他	0.2	0.3
合計	100	100

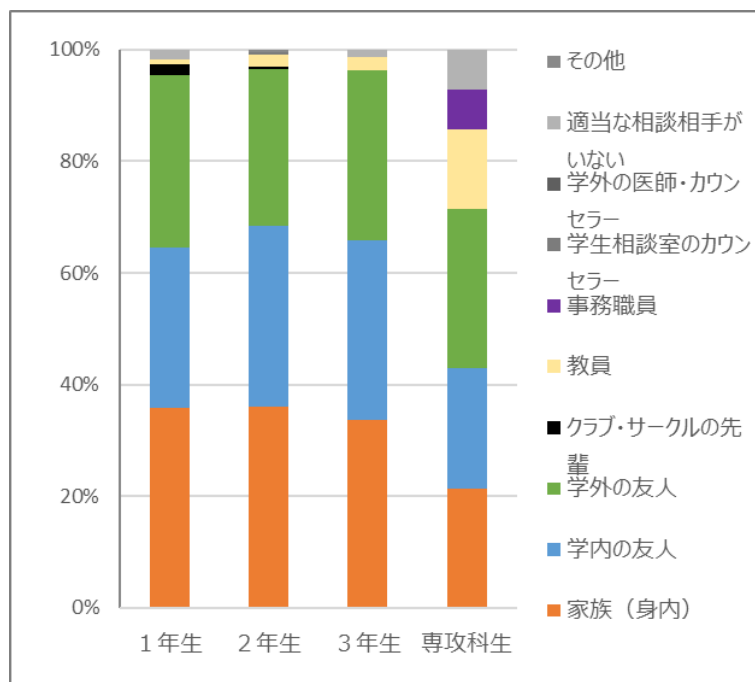
この設問では、誰に悩み事の相談をするかについて回答を求めた。複数回答が可能であり、のべ回答者数は1年生 223、2年生 203、3年生 211、専攻科 14、合計 651 である。図は各学年における総選択肢数に対する割合を示す。

全体としては、相談する相手は、「家族（身内）」、「学内の友人」、「学外の友人」が最も多く、約 95%を占めている。即ち、相談相手は複数に及んでいる。その他の相談相手は何れも 5%以下で、「学生相談室」に相談する学生は 0.2%で、また、「適切な相談相手がいない」学生も 1.2%いる。

前回と比較すると、概ね「家族」と「友人」が相談相手である傾向は変わらないと思われる。また、「教員」、「事務職員」に相談する学生は少なく傾向は変わらない。

学年別にみると、「家族に相談する」学生は、1年生 35.9%、2年生 36.0%、3年生 33.6%、専攻科生 21.4%で、1～3年生ではいずれも約 3 割を占めている。また「学内の友人」、「学外の友人」もほぼ同程度の割合を示す。一方、「適当な相談相手がいない」学生は僅かであるが、1年生 1.8%、2年生 0.0%、3年生 1.4%、専攻科生 7.1%いる。

悩み事の相談相手



[問 18]誰（どこ）に大学や学習に関する疑問、不満、要望を相談するか選択してください。（複数回答可）

1. 短期大学部事務室窓口
2. 学生相談室
3. 教員
4. 友人
5. 家族等
6. その他
7. どこ（誰）にも話さない
8. 疑問、不満、要望などはない

問 18 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 短期大学部事務室	7.8	8.6
2. 学生相談室	0.8	0.6
3. 教員	10.2	11.5
4. 友人	40.6	42.9
5. 家族（身内）	28.0	28.2
6. 誰（どこ）にも話さない	3.5	0.2
7. 疑問、不満、要望などはない	8.8	2.1
8. その他	0.4	5.9
合計	100	100

この設問では、大学や学習に関する疑問、不満、要望など（疑問等）をどこ（誰）に相談するかについて回答を求めた。複数回答が可能であり、選択肢数は1年生 175、2年生 146、3年生 155、専攻科生 14、合計 490 である。図は各学年に

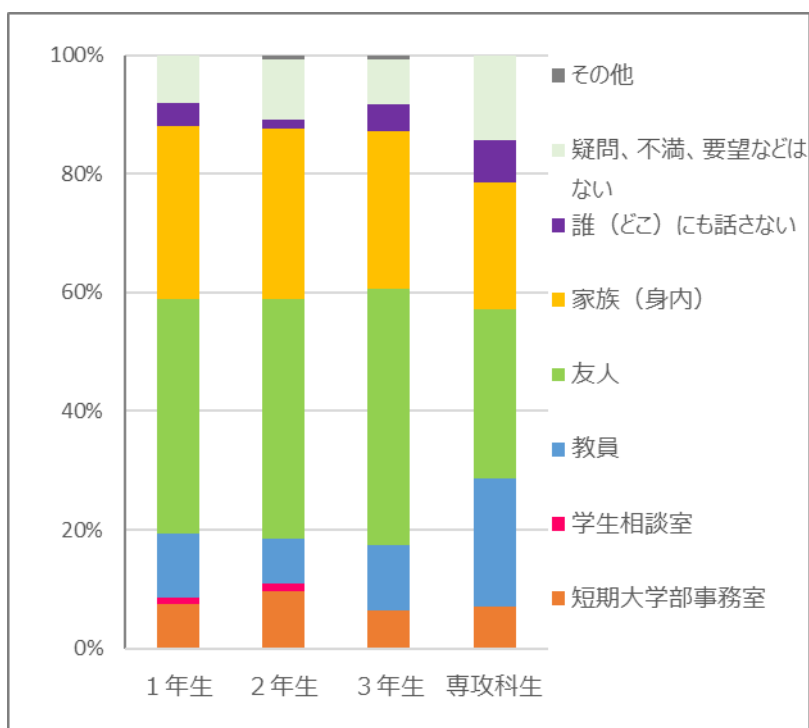
における総選択肢数に対する割合を示す。

全体としては、「疑問等はない」学生は 8.8%であり、ほとんどの学生が大学や学習に対して何らかの疑問等をもっている。疑問等に関して相談する相手で最も多いのは「友人」で 40.6%、次いで「家族（身内）」28.0%、「教員」10.2%、「短期大学部事務室」7.8%の順である。一方、疑問等をもっているも「どこ（誰）」にも話さない」学生が 3.5%いる。

前回と比較すると、相談相手では、「学生相談室」、「誰（どこ）」にも話さない、が増加し、「短期大学部事務室」、「教員」、「友人」が減少している。

学年別にみると、「疑問等はない」学生は 1 年生 8.0%、2 年生 10.3%、3 年生 7.7%、専攻科生 14.3%であり、ほとんどの学生が大学や学習に対して疑問等をもっている。相談相手として「友人」を選択した学生は、1 年生 39.4%、2 年生 40.4%、3 年生 43.2%、専攻科生 28.6%で、「家族（身内）」は、1 年生 29.1%、2 年生 28.8%、3 年生 26.5%、専攻科生 21.4%で、どの学年も友人と家族（身内）の割合が多い。相談相手に「教員」を選択した学生の割合は、1 年生 10.9%、2 年生 7.5%、3 年生 11.0%、専攻科生 21.4%で、「短期大学部事務室」の割合は、1 年生 7.4%、2 年生 9.6%、3 年生 6.5%、専攻科生 7.1%である。大学や学習に関する疑問等に関する相談相手として、教員や事務室をもっと利用してほしいと考える。一方、疑問等があっても「どこ（誰）」にも話さない」学生は、1 年生 4.0%、2 年生 1.4%、3 年生 4.5%、専攻科生 7.1%であった。

大学・学習に関する疑問の相談相手



[問 19]次の中から短期大学部の教育で要望したいことは何か選択してください。（複数回答可）

1. 専門教育を充実させてほしい
2. 教養教育を充実させてほしい
3. キャリア教育（就職活動）を充実させてほしい
4. 科目選択の幅を増やしてほしい
5. コンピューター教育を充実させてほしい
6. その他
7. 特に要望はない

問 19 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 専門教育の充実	13.7	14.6
2. 教養教育の充実	8.1	8.2
3. キャリア教育（就職活動）の充実	12.6	11.0
4. 科目選択の幅	8.4	9.2
5. コンピューター教育の充実	6.7	6.4
6. 特に要望はない	49.7	48.5
7. その他	0.8	2.1
合計	100	100

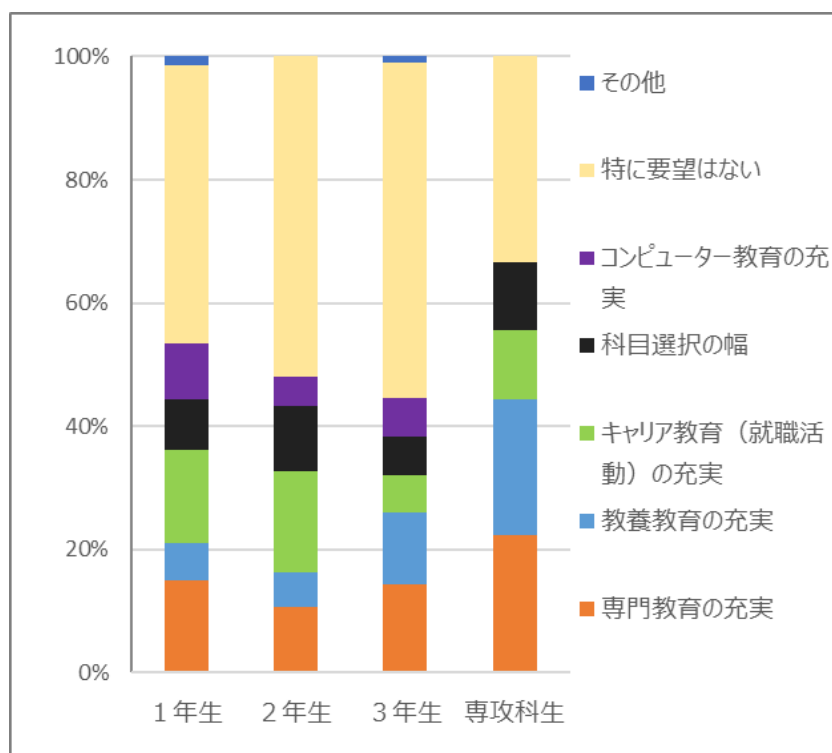
この設問は、本学部の教育で特に要望したいことについて回答を求めた。複数回答が可能であり、のべ回答者数は1年生 133、2年生 104、3年生 112、専攻科生 9、合計 358 である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としてみると、「特に要望はない」学生が 5 割弱いる。要望としては「専門教育を充実してほしい」が最も多く、13.7%を占めている。次いで「キャリア教育（就職活動）を充実してほしい」が 12.6%、「科目選択の幅を増やしてほしい」が 8.4%、「教養教育の充実」が 8.1%と続く。

前回と比較すると「専門教育の充実」、「教養教育の充実」、「科目選択の幅」が減少し、「キャリア教育（就職活動）の充実」、「コンピューター教育の充実」が増加している。

学年別に比較すると、「特に要望はない」学生は、1年生 45.1%、2年生 51.9%、3年生 54.5%、専攻科生 33.3%である。「専門教育を充実してほしい」学生は、1年生 15.0%、2年生 10.6%、3年生 14.3%、専攻科生 22.2%で、専攻科生に多い。歯科衛生士資格をもつ専攻科の学生が専門教育の充実を望むことは当然のことである。

教育についての要望



[問 20]クラブ・サークルの所属について選択してください。

1. 学内の運動部に所属している
2. 学内の文化部に所属している
3. 学内の未公認サークルに所属している
4. 学外のサークルに所属している
5. 所属していない

問 20 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 学内の運動部に所属している	7.2	4.4
2. 学内の文化部に所属している	3.4	3.2
3. 学内の未公認サークルに所属している	0.3	0.6
4. 学外のサークルに所属している	3.1	1.6
5. 所属していない	86.0	90.2
合計	100	100

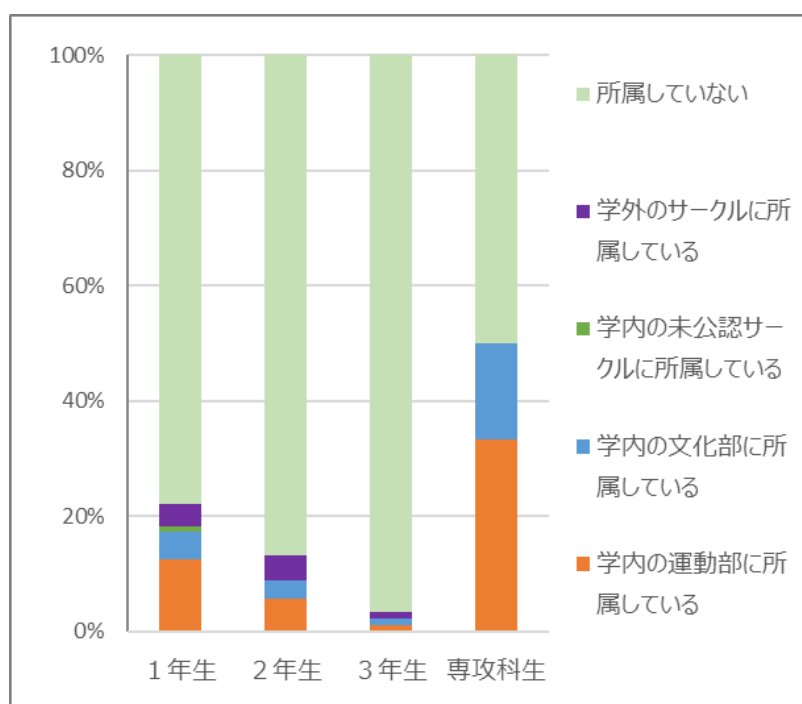
この設問では、いずれかのクラブ・サークルに所属しているかについて回答を求めた。

全体としては、「所属していない」学生が、所属している学生より圧倒的に多く、約 9 割の学生はクラブ・サークルに所属していない。比較的多い「学内運動部」でさえ、7.2%である。

前回と比較すると、「学内文化部」、「学内のサークル」の学生が増加した。

学年別にみると、いずれの学年も「所属していない」が圧倒的に多いが、その割合は、1 年生 77.9%，2 年生 86.8%，3 年生 96.7%，専攻科生 50.0%である。大部分の学生がクラブ・サークルに所属していない理由として、本学のような医療系の学科では時間割もタイトであること、また、アルバイトをしている学生が多く放課後の時間をクラブ・サークルにあてることが困難なためと考えられる

クラブ・サークルの所属状況



4. 学外活動

[問 21] アルバイトの経験はありますか。

1. 経験がある
2. 経験がない

問 21 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 経験がある	97.3	96.8
2. 経験がない	2.7	3.2
合計	100	100

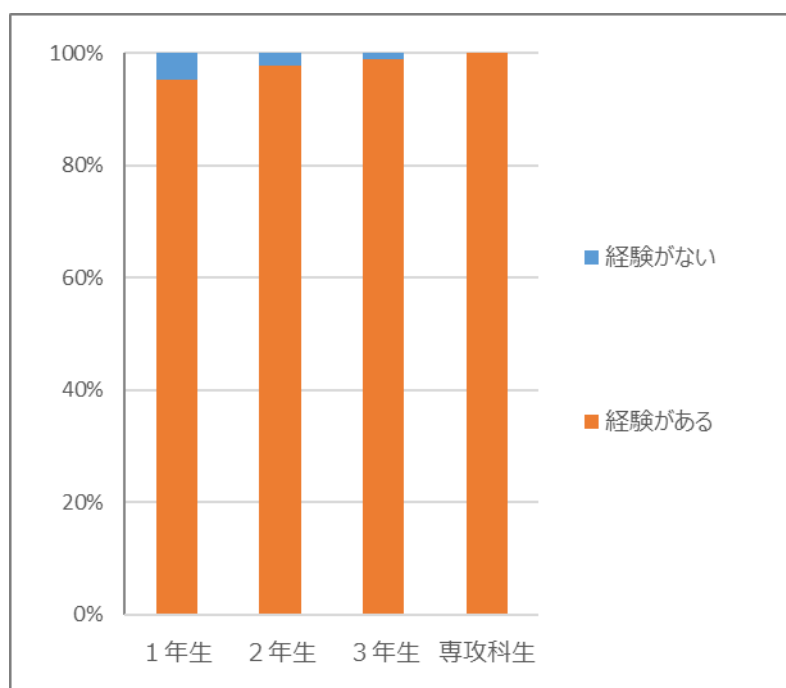
この設問では、アルバイト経験の有無について回答を求めた。

全体としては、アルバイトの「経験がある」学生が 97.3% と圧倒的に多数である。

前回と比較すると、「アルバイト経験がある」学生の割合は極僅か増加している。

学年別にみると、「経験がある」学生は、1 年生 95.2%、2 年生 97.8%、3 年生 98.9%、専攻科生 100.0% で、1 年生でやや少ないが、ほとんどの学生がアルバイトの経験がある。

アルバイト経験



[問 22]現在、アルバイトの 1 週間あたりの平均勤務時間を選択してください。

1. 5 時間未満
2. 5 時間以上 10 時間未満
3. 10 時間以上 20 時間未満
4. 20 時間以上 30 時間未満
5. 30 時間以上
6. 現在アルバイトはしていない

問 22 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 5 時間未満	7.5	13.9
2. 5 時間以上10時間未満	31.4	23.4
3. 10時間以上20時間未満	44.0	43.7
4. 20時間以上30時間未満	9.9	12.7
5. 30時間以上	0.0	0.3
6. 現在アルバイトはしていない	4.4	2.8
無回答	2.7	3.2
合計	100	100

* 無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

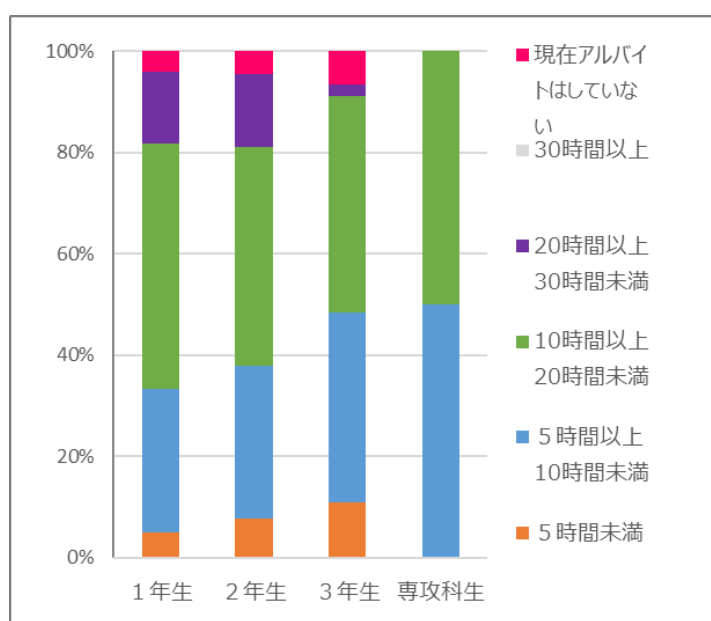
この設問では、1 週間あたりの勤務時間について回答を求めた。

全体としては、週「10 時間以上 20 時間未満」の学生が最も多く、「5 時間以上 10 時間未満」の順である。次いで、「20 時間以上 30 時間未満」、「5 時間未満」であった。また、「現在はしていない」学生も僅かにいる。

前回と比較して、「5 時間以上 10 時間未満」、「10 時間以上 20 時間未満」が増加している。一方で、「5 時間未満」、「20 時間以上 30 時間未満」、「30 時間以上」は減少している。

学年別では、「現在はしていない」は 1～3 年生の各学年とも同程度で、少数である。

週あたりの平均アルバイト勤務時間



[問 23]月あたりの平均アルバイトの収入を選択してください。

1. 3万円未満
2. 3万円以上5万円未満
3. 5万円以上7万円未満
4. 7万円以上10万円未満
5. 10万円以上

問 23 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 3万円未満	9.2	10.1
2. 3万円以上5万円未満	30.0	26.3
3. 5万円以上7万円未満	27.3	30.1
4. 7万円以上10万円未満	24.6	24.4
5. 10万円以上	1.7	3.2
無回答	7.2	6.0
合計	100	100

*無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

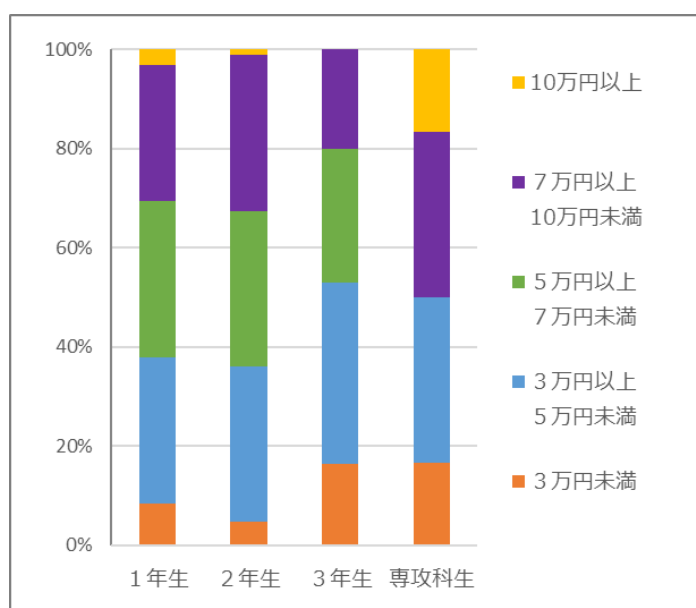
この設問では、1ヶ月あたりのアルバイトの平均収入について回答を求めた。

全体としては、「3万円以上5万円未満」の学生が最も多く全体の3割、次いで「5万円以上7万円未満」、「7万円以上10万円未満」で、ここまですべての約8割以上を占めた。また、「10万円以上」も少数いた。

前回と比べ、アルバイトの月収はほぼ同じ傾向を示している。

学年別にみると、「3万円以上5万円未満」の学生は1年生26.9%、2年生29.7%、3年生33.7%、専攻科生33.3%と3年生と専攻科生に多く、「5万円以上7万円未満」の学生は1年生28.8%、2年生29.7%、3年生25.0%、専攻科生0.0%で、2年生に多い。また、「7万円以上10万円未満」の学生は1年生25.0%、2年生29.7%、3年生18.5%、専攻科生33.3%で、専攻科生に多い。

アルバイトの平均月収



[問 24]次の中からアルバイトの職種を選択してください。(複数回答可)

1. 歯科医院
2. 飲食・フード
3. 販売・接客・サービス
4. 教育
5. レジャー・エンタメ
6. 営業・事務
7. 物流・配送
8. IT・コンピューター
9. その他

問 24 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 歯科医院	16.3	16.7
2. 飲食関係	50.4	50.6
3. 販売・接客・サービス関係	21.2	23.0
4. 教育関係	2.6	1.7
5. レジャー・エンタメ・娯楽関係	3.4	1.9
6. 営業・事務関係	0.3	0.7
7. 物流・配送関係	0.0	0.2
8. IT・コンピューター関係	0.0	0.0
9. その他	0.5	0.5
無回答	5.4	4.6
合計	100	100

* 無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

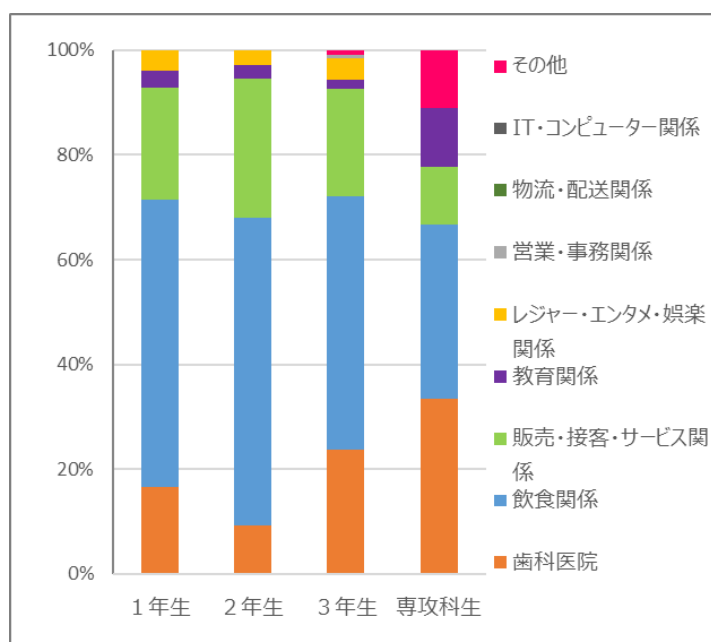
この設問では、アルバイトの職種について回答を求めた。複数回答が可能であり、のべ回答者数は1年生 135、2年生 114、3年生 129、専攻科生 9 の合計 387 である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としては、「飲食関係」の学生が最も多く、次いで、「販売・接客・サービス関係」、「歯科医院」の順である。他の職種はいずれも 3.5%以下である。

前回と比較しても、傾向は殆ど変わらない。

学年別にみると、いずれの学年も「飲食関係」の学生が最も多く、その割合は1年生 51.1%、2年生 56.1%、3年生 45.7%、専攻科生 33.3%で2年生が最も多い。それに対して、「歯科医院」でアルバイトをする学生は、1年生 15.6%、2年生 8.8%、3年生 22.5%、専攻科生 33.3%で、2年生が少なく、3年生、専攻科生で増加している。

アルバイトの職種



[問 25]次の中からアルバイト収入の使途を選択してください。(複数回答可)

1. 学費（授業料等）
2. 勉学費（教科書、書籍、文具等）
3. 通学交通費（定期代）、免許取得費、自動車・バイク等購入維持費
4. クラブ・サークル活動費
5. 生活費（食住費）
6. 趣味、被服、娯楽
7. 貯金
8. その他

問 25 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 学費（授業料等）	2.9	2.5
2. 勉学費（教科書、書籍、文具等）	4.1	5.7
3. 通学交通費（定期代）、免許取得費、自動車・バイク等購入維持費	7.0	5.5
4. クラブ・サークル活動費	2.1	1.3
5. 生活費（食住費）	11.6	9.4
6. 趣味、被服、娯楽	43.4	45.2
7. 貯金	25.3	27.4
8. その他	0.0	0.0
無回答	3.6	3.0
合計	100	100

* 無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

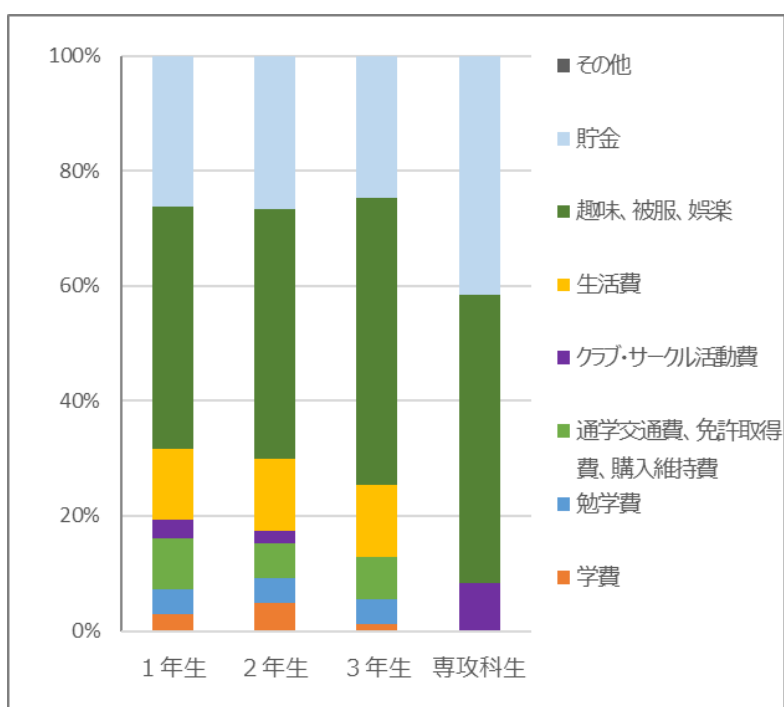
この設問では、アルバイト収入の主な使いみちについて回答を求めた。複数回答が可能であり、総回答数は1年生 215、2年生 189、3年生 169、専攻科生 12、合計 585 である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としては、「趣味、被服、娯楽費」に使う学生が圧倒的に多く、次いで、「貯金」、「生活費（食住費）」、「通学交通費等」、「勉学費」の順である。また、「学費」に使う学生も少数いる。

前回と同様に、「趣味、被服、娯楽費」に相当する使途が圧倒的に多い。一方、「学費」、「通学交通費等」、「クラブ・サークル活動費」、「生活費（食住費）」に使う学生は増加している。

学年別にみると、「趣味、被服、娯楽費」への使途が1年生 40.5%、2年生 42.3%、3年生 47.9%、専攻科生 50.0%で、専攻科生で最も高い。「貯金」は、1年生 25.1%、2年生 25.9%、3年生 23.7%、専攻科生 41.7%で、専攻科生で最も高く、1～3年生ではほぼ同じである。

アルバイト収入の使途



[問 26]次の中から授業終了後の行動について選択してください。（複数回答可）

1. まっすぐ家に帰る
2. 友人と遊ぶ
3. 学内で勉強する
4. クラブ・サークル活動をする
5. 教室、学食、マグネットラウンジ等で過ごす
6. アルバイトに行く
7. 学外の各種学校に行く（資格取得等）
8. その他

問 26 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. まっすぐ家に帰る	35.1	37.9
2. 友人と遊ぶ	25.1	24.8
3. 学内で勉強する	7.6	0.0
4. クラブ・サークル活動をする	2.7	2.2
5. 教室、学食、マグネットラウンジ等で過ごす	0.8	3.6
6. アルバイトに行く	27.4	29.5
7. 学外の各種学校に行く（資格取得等）	0.5	0.3
8. その他	0.7	1.7
合計	100	100

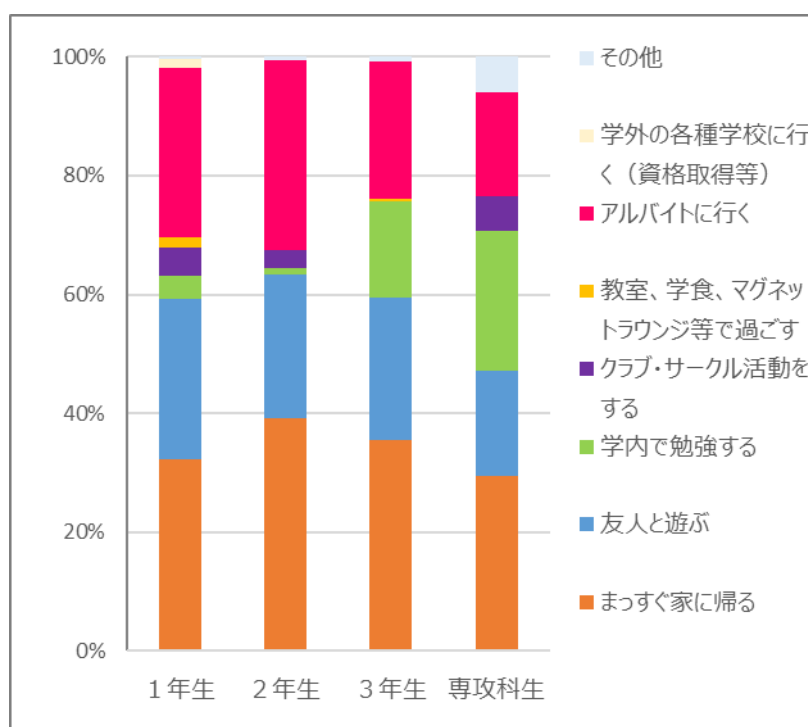
この設問では、授業終了後はどのように過ごしているかについて回答を求めた。複数回答が可能であり、総回答数は1年生 280、2年生 197、3年生 239、専攻科 17、合計 733 である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としては、「まっすぐ家に帰る」が最も多く、次いで「アルバイトに行く」、「友人と遊ぶ」の順である。また、学内の「学内で勉強する」、「クラブ・サークル活動をする」学生もいる。まっすぐ帰る日もあれば、アルバイトに行く日や友人と遊ぶ日、学内で過ごしてから帰る日もあるということである。

前回と比較すると、「友人と遊ぶ」、「学内で勉強する」、「クラブ・サークル活動をする」、「学外の各種学校に行く」の項目が増加している。前は 0.0% であった「学内で勉強する」学生が増加している理由として、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけも 5 類に移行され、流行前と同様の学生生活ができてきているからだと思われる。

学年別にみると、「まっすぐ家に帰る」学生は1年生で 32.1%、2年生で 39.1%、3年生 35.6%、専攻科生で 29.4% と、専攻科生でやや少なく、2年生でやや多い傾向である。一方、「アルバイトに行く」学生は1年生で 28.6%、2年生で 32.0%、3年生 23.0%、専攻科生 17.6% と、3年生と専攻科生で少ない傾向にある。「友人と遊ぶ」学生は、1年生で 27.1%、2年生で 24.4%、3年生 23.8%、専攻科生 17.6% で、1年生でやや多い傾向である。

授業終了後の行動



5. 進路・満足度

[問 27]卒業後の進路について選択してください。

1. 歯科衛生士として就職
2. 歯科衛生士以外の職業に就職
3. 進学
4. 海外留学する
5. まだわからない
6. その他

問 27 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 歯科衛生士として就職	85.7	86.7
2. 歯科衛生士以外の職業に就職	0.0	0.3
3. 進学	3.8	2.8
4. 海外留学	0.3	0.6
5. まだわからない	10.2	9.2
6. その他	0.0	0.3
合計	100	100

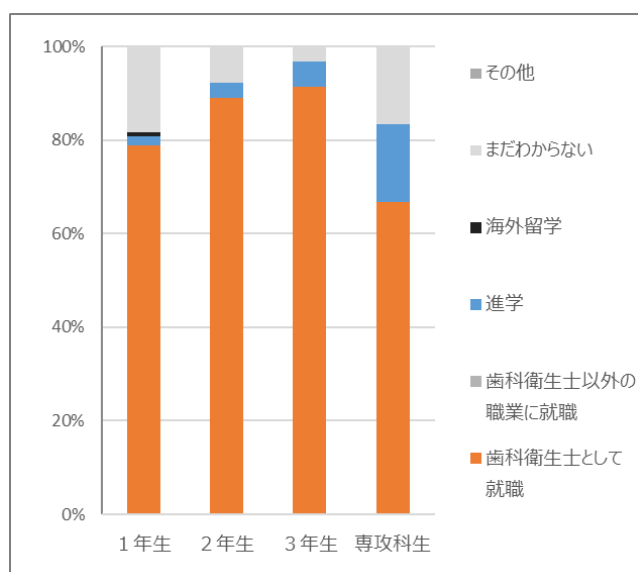
この設問では、卒業後の進路予定について回答を求めた。

全体としては、「歯科衛生士として就職」と解答した学生が 85.7%と最も多い。次いで「まだわからない」学生が 10.2%である。

前回と比較すると、大多数は「歯科衛生士として就職」で同じであるが、続いて「まだわからない」、「進学」の順となり、同様の結果である。

学年別に比較すると、いずれの学年も「歯科衛生士として就職」の学生が圧倒的に多いが、その割合は 1 年生 78.8%、2 年生 89.0%、3 年生 91.3%、専攻科生 66.7%で、1 年生から 3 年生へ学年が上がるに従って増加している。「進学」は 1 年生 1.9%、2 年生 3.3%、3 年生 5.4%、専攻科生 16.7%と、1～3 年生の中では 3 年生の割合が高い。専攻科生の中にもさらなる進学を希望する者がいる。一方、「まだわからない」は 1 年生 18.3%、2 年生 7.7%、3 年生 3.3%、専攻科生 16.7%で、3 年生になると、1、2 年生より進路が明確になってくるようである。

卒業後の進路



[問 28] 学生生活の充実度について選択してください。

1. 充実している
2. 充実していない
3. どちらも言えない

問 28 表 全学年の選択肢別割合 (%)

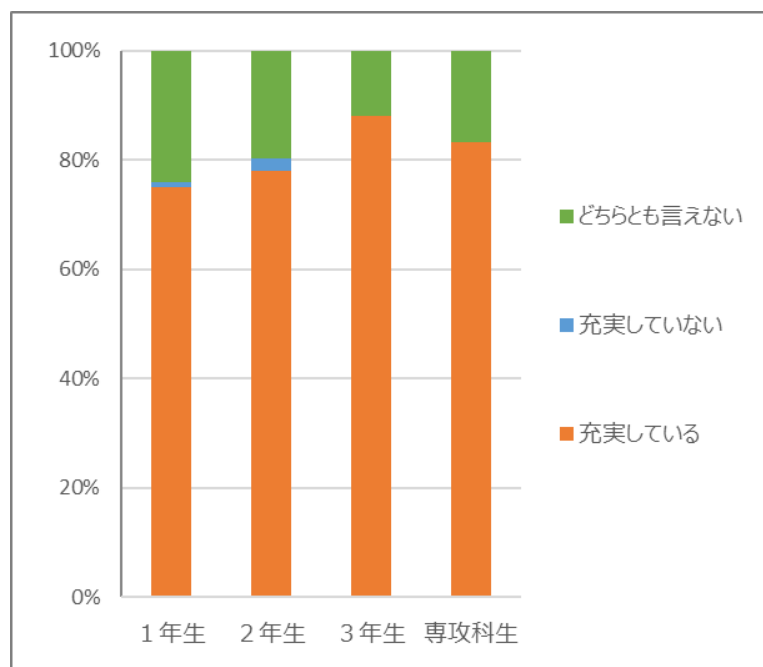
回答内容	今回	前回
1. 充実している	80.2	73.4
2. 充実していない	1.0	4.7
3. どちらも言えない	18.8	21.8
合計	100	100

この設問では、学生生活の充実度について回答を求めた。

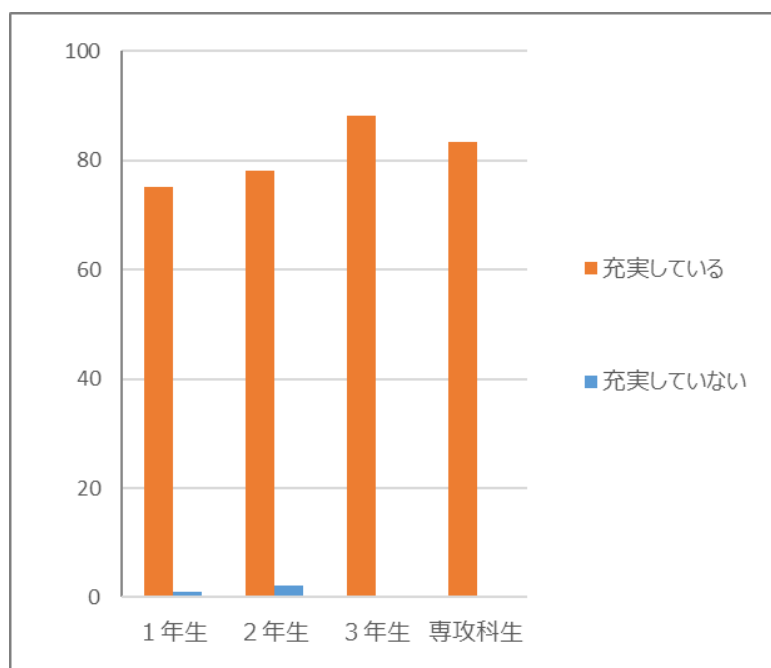
全体としては、「充実している」と答えた学生が 80.2%で、「充実していない」と答えた 1.0%を大きく上回っている。前回と比較すると、「充実している」が増加し、「充実していない」、「わからない」が減少している。専攻科生も含め、すべての学年で充実度は上がっている。

学年別に見ると、「充実している」学生は、1 年生 75.0%、2 年生 78.0%、3 年生 88.0%、専攻科生 83.3%で、学年が上がるに従い増加している。専攻科生も 8 割以上が、学生生活が充実していると回答している。逆に、「充実していない」学生は、1 年生 1.0%、2 年生 2.2%、3 年生 0.0%、専攻科生 0.0%で、学生生活が充実していないものは、3 年生と専攻科生では存在せず、1, 2 年生でも極わずかである。

学生生活の充実度



充実度の比較（％）



[問 29]学科の内容全体に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 29 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 満足している	37.2	32.3
2. ほぼ満足している	34.5	34.5
3. 特に不満はない	22.9	24.4
4. 少し不満がある	5.1	7.3
5. 不満	0.3	1.6
合計	100	100

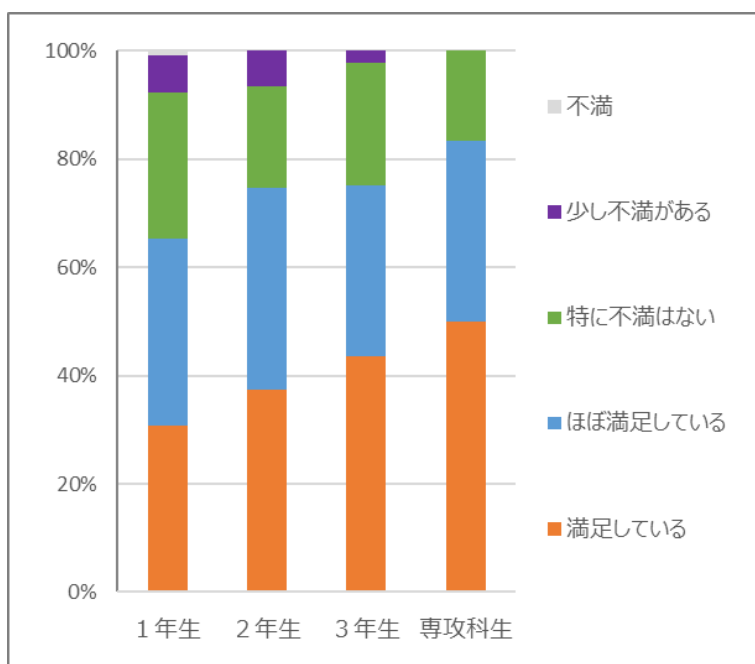
この設問では、学科の内容全体の満足度について回答を求めた。

全体としては、「満足している」学生が最も多く、次いで、「ほぼ満足している」、「特に不満はない」、「少し不満がある」の順であり、「不満」も極わずかではあるが、

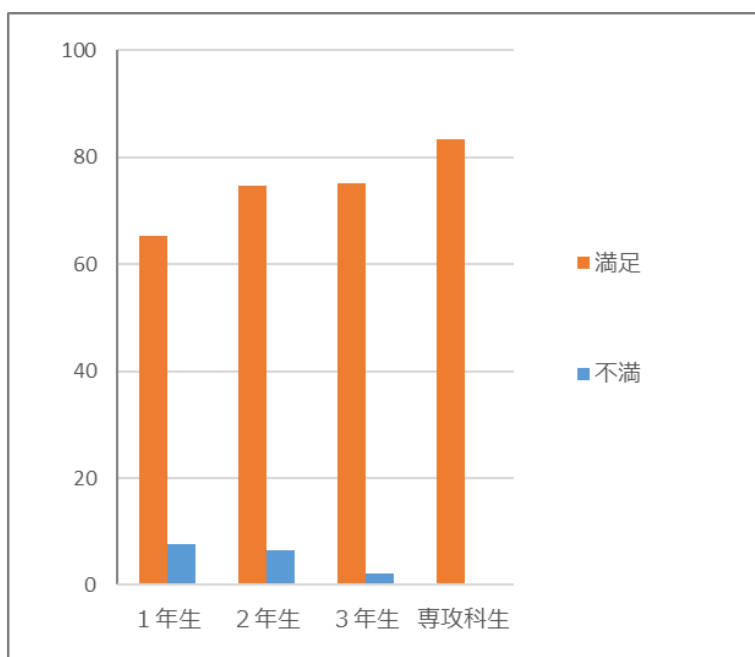
前回と比較すると、「満足」が増加し、「満足」と「ほぼ満足」を合計すると 71.7% となり、満足度は上がっている。

学年別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」が、1 年生で 65.4%、2 年生で 74.7%、3 年生で 75.0%、専攻科生で 83.3% であり、学年が上がるに従い満足度は上がっており、特に専攻科生の満足度は高かった。

学科の内容全体の満足度



満足度の比較 (%)



[問 30]開講されている科目の種類や内容に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 30 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 満足している	34.8	31.6
2. ほぼ満足している	34.8	34.2
3. 特に不満はない	25.9	27.2
4. 少し不満がある	3.4	5.1
5. 不満	1.0	1.9
合計	100	100

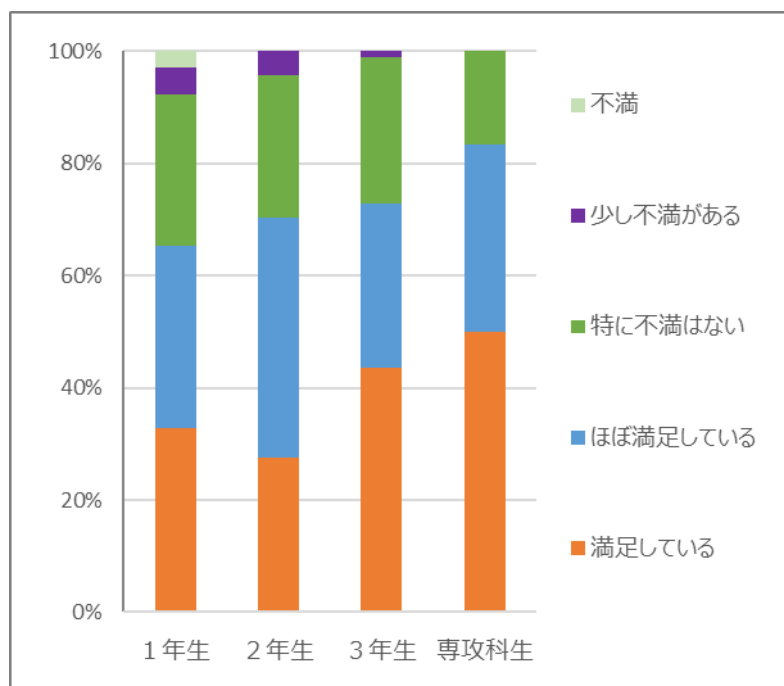
この設問では、開講されている科目の種類や内容の満足度について回答を求めた。

全体としては、「満足している」、「ほぼ満足している」、「特に不満はない」学生がそれぞれ約 3 割で、「少し不満がある」が僅かにいるに過ぎない。

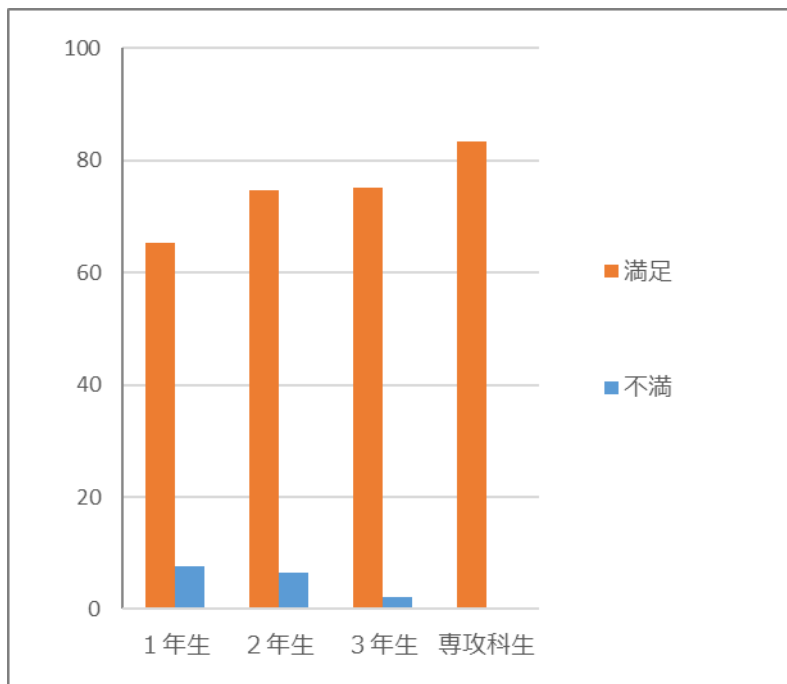
前回と比較すると、「満足している」、「ほぼ満足している」学生が増加し、「特に不満はない」、「少し不満がある」、「不満」学生が減少している。

学年別にみると、「満足している」学生の割合は 1 年生 32.7%，2 年生 27.5%，3 年生 43.5%，専攻科生 50.0%と 2 年生の割合が低い。「ほぼ満足」の割合は 1 年生 32.7%，2 年生 42.9%，3 年生 29.3%，専攻科生 33.3%で、2 年生で最も高かったが、1，3 年生，専攻科生の間ではほとんど差はなかった。「満足している」と「ほぼ満足」を加えた「満足」は、1 年生 65.4%，2 年生 70.3%，3 年生 72.8%，専攻科生 83.3%で、専攻科生で最も高い。満足度が最も低い 1 年生でも 65%以上が満足している。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1 年生 7.7%，2 年生 4.4%，3 年生 1.1%，専攻科生 0.0%で、1 年生で最も高いが、その割合は低いものである。

科目の種類・内容についての満足度



満足度の比較（％）



[問 31]時間割編成に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 31 表 全学年選択肢別割合(%)

回答内容	今回	前回
1. 満足している	27.6	27.2
2. ほぼ満足している	28.3	23.7
3. 特に不満はない	29.0	25.9
4. 少し不満がある	12.6	15.2
5. 不満	2.4	7.9
合計	100	100

この設問では、時間割編成の満足度について回答を求めた。

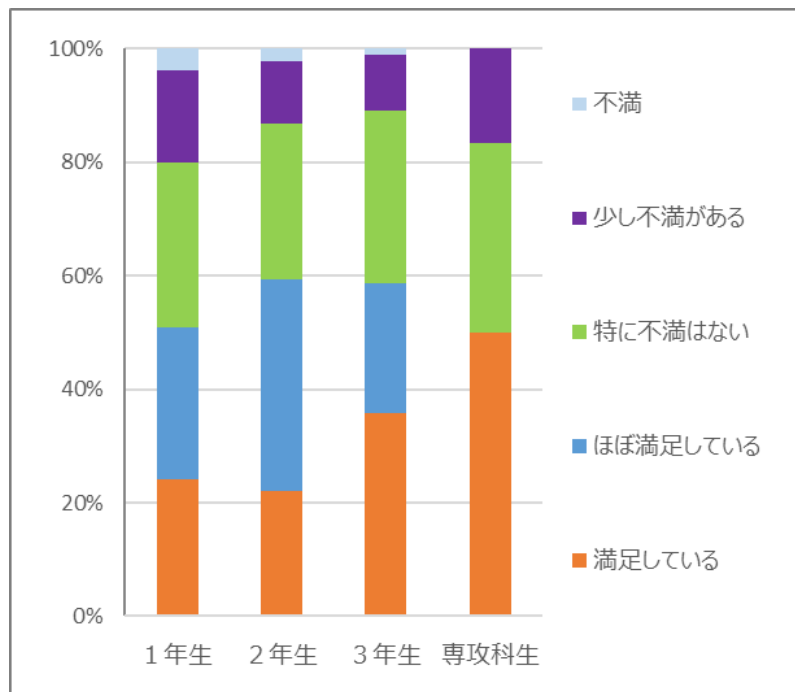
全体としては、「特に不満はない」学生が最も多く、次いで、「ほぼ満足している」、「満足している」、「少し不満がある」の順であり、「不満だ」は最も少ない。「満足」と「ほぼ満足」を加えた「満足」の割合は55.9%で、「少し不満」と「不満」を加えた「不満」の15.0%より明らかに多い。

前回と比較すると、前は「満足している」が最も多かったが、今回は「特に不満はない」学生が最も多くなった。「満足」と「ほぼ満足」を加えた「満足」の割合はやや上がり、「少し不満」と「不満」を加えた「不満」の割合は減少している。

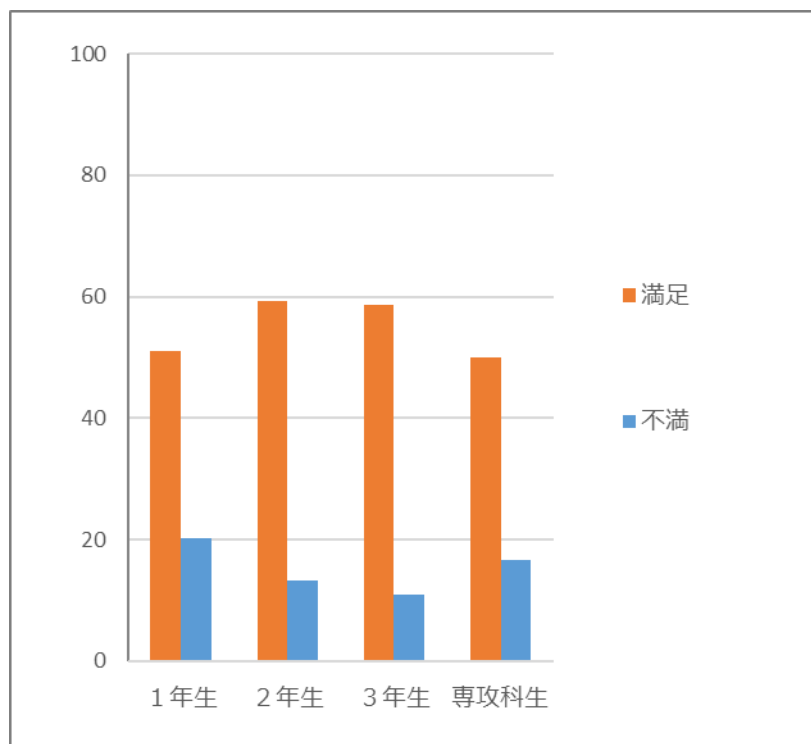
学年別に見ると、「満足している」学生の割合は、1年生24.0%、2年生22.0%、3年生35.9%、専攻科生50.0%、「ほぼ満足している」割合は、1年生26.9%、2年生37.4%、3年生22.8%、専攻科生0.0%である。それぞれを加えた

「満足」の割合は1年生 51.0%，2年生 59.3%，3年生 58.7%，専攻科生 50.0%で，満足度は1年生と専攻科生でやや低い．一方，「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は1年生 20.2%，2年生 13.2%，3年生 10.9%，専攻科生 16.7%で，1年生で多い．

時間割編成についての満足度



満足度の比較 (%)



[問 32]講義・実習の内容や方法に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 32 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 満足している	32.4	32.3
2. ほぼ満足している	32.1	30.1
3. 特に不満はない	29.0	27.5
4. 少し不満がある	5.8	8.2
5. 不満	0.7	1.9
合計	100	100

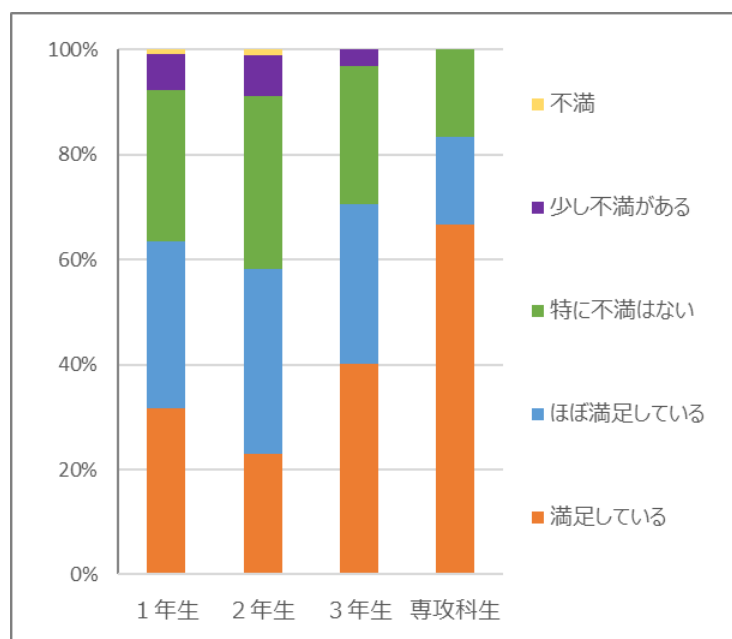
この設問では、講義・実習の内容や方法に関する満足度について回答を求めた。

全体としては、「満足している」学生が最も多く、次いで「ほぼ満足している」、「特に不満はない」、「少し不満がある」の順であり、「不満だ」は最も少ない。「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は 64.5%で、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた不満の割合 6.5%より遙かに多い。

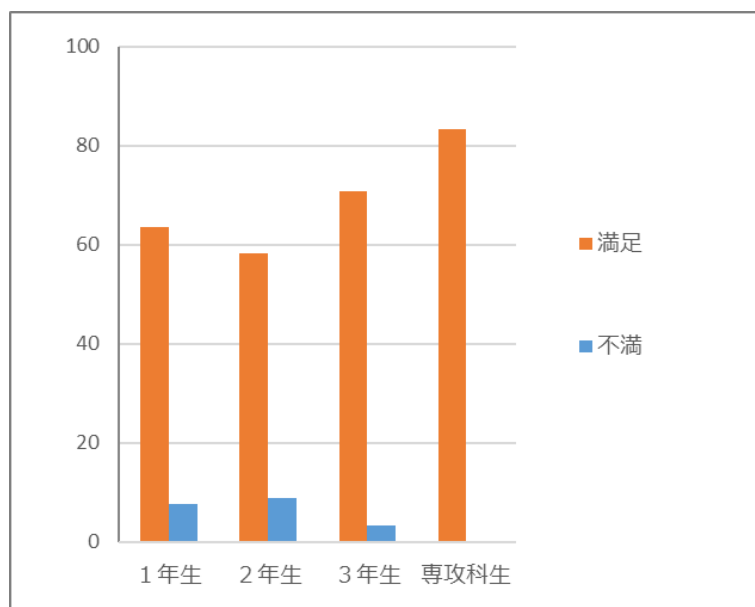
前回と比較すると、「少し不満」、「不満」が減少し、「満足」、「ほぼ満足」、「特に不満はない」が増加している。

学年別に見ると、「満足している」学生の割合は、1 年生 31.7%、2 年生 23.1%、3 年生 40.2%、専攻科生 66.7%、「ほぼ満足している」学生の割合は、1 年生 31.7%、2 年生 35.2%、3 年生 30.4%、専攻科生 16.7%である。「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は、1 年生 63.5%、2 年生 58.2%、3 年生 70.7%、専攻科生 83.3%で、満足度は専攻科生で高く、1、2 年生でやや低い。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1 年生 7.7%、2 年生 8.8%、3 年生 3.3%、専攻科生 0.0%で、いずれも 10.0%未満と極端に低い。

講義についての満足度



満足度の比較（％）



[問 33]教育施設・設備（教室・実習室・図書館情報センター等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 33 表 全学年の選択肢別割合（％）

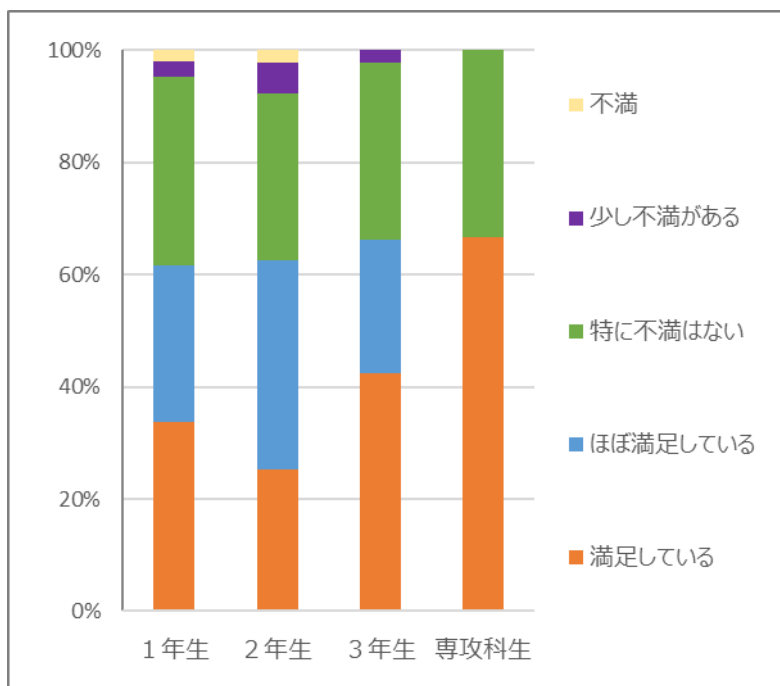
回答内容	今回	前回
1. 満足している	34.5	35.4
2. ほぼ満足している	29.0	28.5
3. 特に不満はない	31.7	29.4
4. 少し不満がある	3.4	5.1
5. 不満	1.4	1.6
合計	100	100

この設問では、教育施設・設備（教室・実習室・図書館情報センター等）の満足度について回答を求めた。

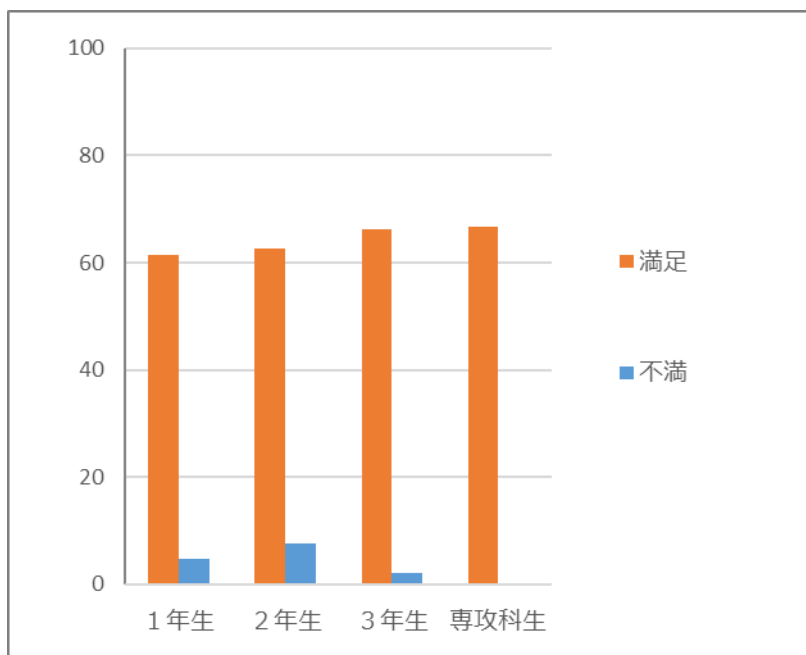
全体としては、「満足」と回答した学生が最も多く、次いで、「特に不満はない」、「ほぼ満足」、「少し不満」の順であり、「不満」と回答したものは少なかった。「満足」と「ほぼ満足」を加えた「満足」している学生の割合 63.5％は、「少し不満」と「不満」を加えた「不満」4.8％より圧倒的に多い。

学年別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は、1年生 61.5％、2年生 62.6％、3年生 66.3％、専攻科生 66.7％である。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1年生 4.8％、2年生 7.7％、3年生 2.2％、専攻科 0.0％であり、1～3年生と専攻科生で「満足」が「不満」を大きく上回っている。

教育施設・設備に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 34]課外活動施設（グラウンド、体育館等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 34 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 満足している	29.4	32.0
2. ほぼ満足している	22.2	22.2
3. 特に不満はない	44.0	42.1
4. 少し不満がある	2.7	2.2
5. 不満	1.7	1.6
合計	100	100

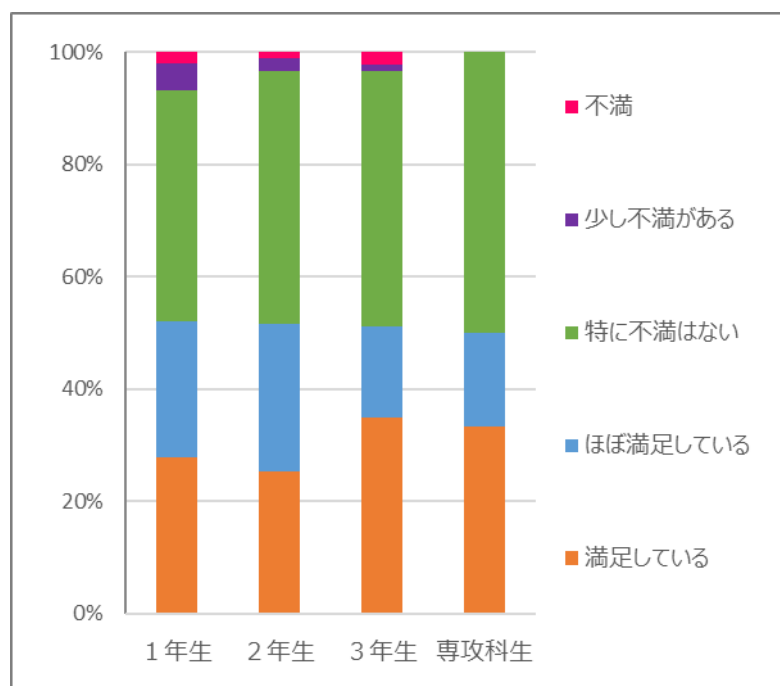
この設問では、課外活動施設（グラウンド・体育館等）の満足度について回答を求めた。

全体としては、「特に不満はない」と回答した学生が 44.0％を占めている。「満足」と「ほぼ満足」を加えた「満足」が 51.6％に対し、「不満」と「少し不満」を加えた「不満」は 4.4％と少ない。

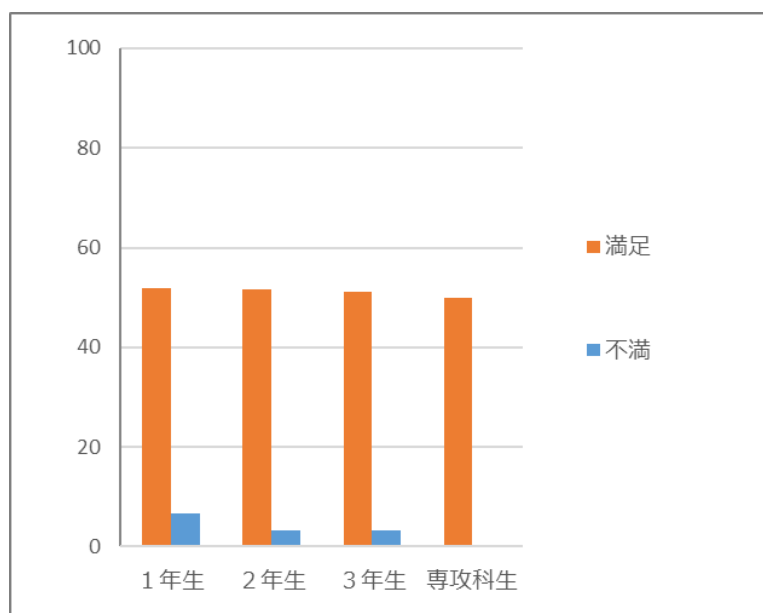
前回と比較すると、「特に不満はない」、「不満」が増加している。

学年別に比較すると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は 1 年生 51.9％、2 年生 51.6％、3 年生 51.1％、専攻科生 50.0％で、全学年で同様の傾向である。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1 年生 6.7％、2 年生 3.3％、3 年生 3.3％、専攻科生 0.0％で、「満足」と比べて低い結果である。

課外活動施設に対する満足度



満足度の比較（％）



[問 35]学内福利厚生施設（歯学部附属病院受診、保健室、食堂、売店等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 35 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 満足している	29.0	27.2
2. ほぼ満足している	24.2	23.4
3. 特に不満はない	37.9	37.0
4. 少し不満がある	6.8	9.8
5. 不満	2.0	2.5
合計	100	100

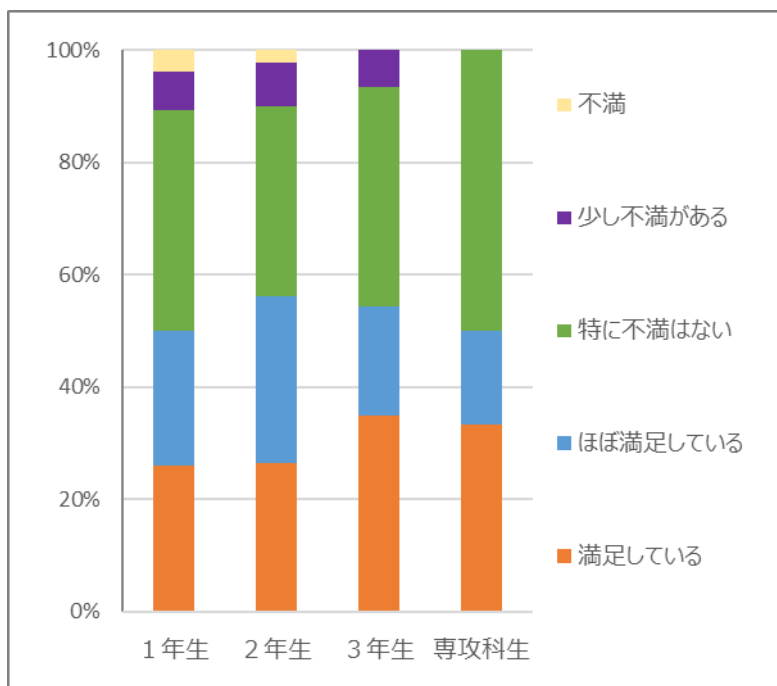
この設問では、学外福利厚生施設（歯学部附属病院受診、保健室、食堂、売店等）の満足度について回答を求めた。

全体としては、「特に不満はない」が最も多く、次に「満足」と「ほぼ満足」で、「少し不満」と「不満」が続く。

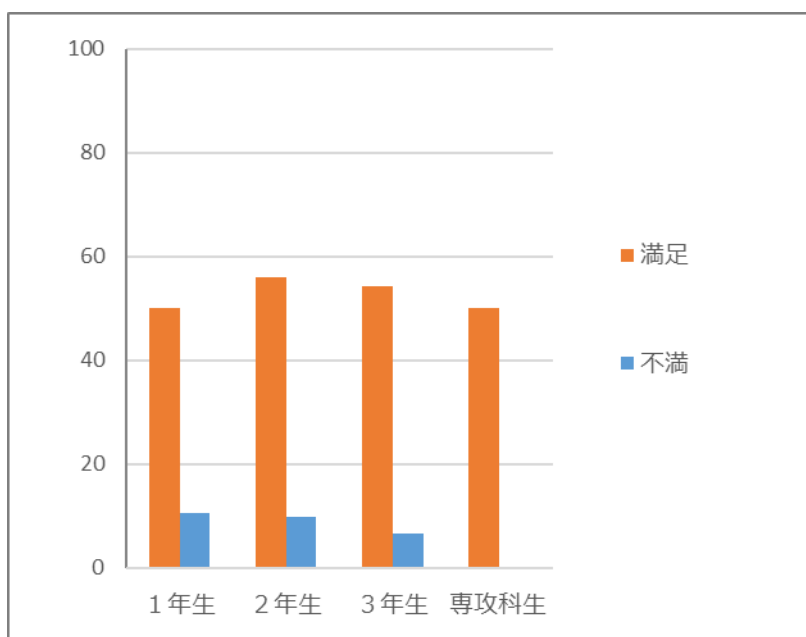
前回と比較すると、「満足」、「ほぼ満足」、「特に不満はない」が増え、「少し不満」、「不満」が減少している。

学年別に比較すると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は、1年生 50.0％、2年生 56.0％、3年生 54.3％、専攻科生 50.0％で、すべての学年で同じ傾向がみられ、満足度は約 50.0％である。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1年生 10.6％、2年生 9.9％、3年生 6.5％、専攻科生 0.0％で、1、2年生の約 10.0％が不満を訴えている。

学内福利厚生施設に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 36]文化活動（楠元祭、公開講演会等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 36 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 満足している	26.3	21.2
2. ほぼ満足している	23.9	15.8
3. 特に不満はない	41.0	50.9
4. 少し不満がある	6.5	7.9
5. 不満	2.4	4.1
合計	100	100

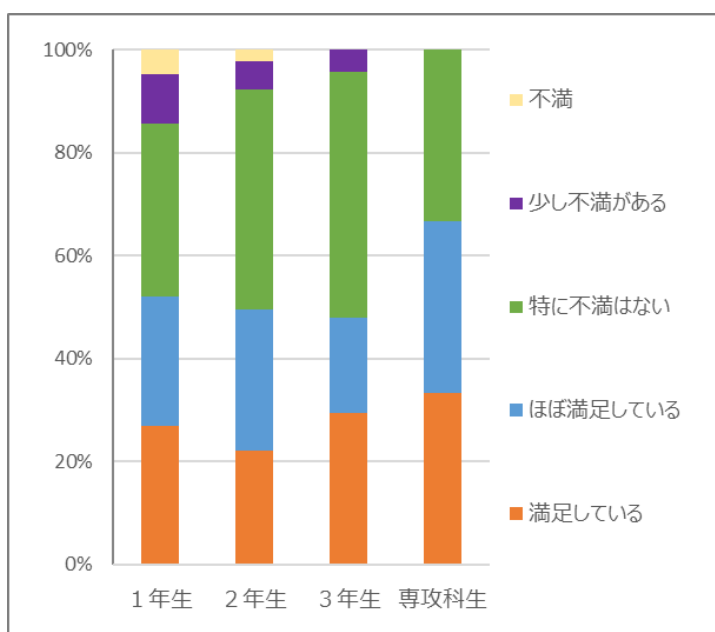
この設問では、文化活動（楠元祭、公開講演会等）の満足度について回答を求めた。

全体としては、「特に不満はない」と答えた学生が 41.0%を占めている。次いで「満足」、「ほぼ満足」が続く。

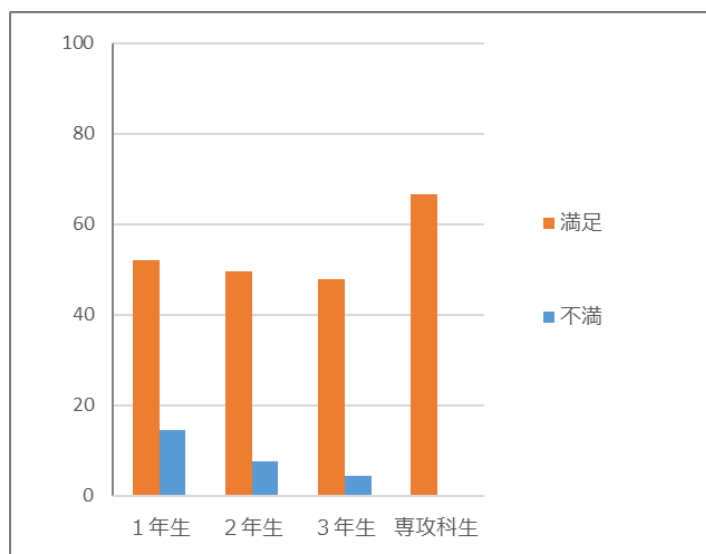
前は「特に不満はない」が圧倒的に多かったが、今回は、「満足」、「ほぼ満足」が増加し、「特に不満はない」が減少している。

学年別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は、1 年生 51.9%、2 年生 49.5%、3 年生 47.8%、専攻科生 66.7%である。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1 年生 14.4%、2 年生 7.7%、3 年生 4.4%、専攻科生 0.0%で、1 年生に多い。2024 年度は楠元祭の開催方法をこれまでと変更したことが、前回より満足度が向上した要因の一つと考えられる。

文化活動に対する満足度



満足度の比較（％）



[問 37]就職対策（キャリア対策）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 37 表 全学年の選択肢別割合（％） ※3 年生と専攻科のみが対象

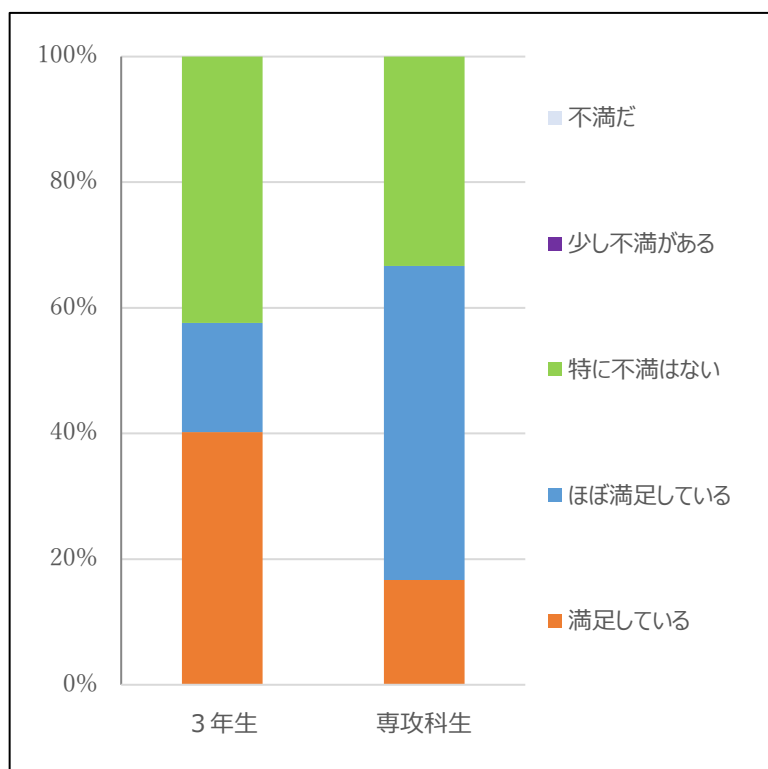
回答内容	今回	前回
1. 満足している	38.8	32.7
2. ほぼ満足している	19.4	33.6
3. 特に不満はない	41.8	27.3
4. 少し不満がある	0.0	2.7
5. 不満だ	0.0	3.6
合計	100	100

この設問では、就職対策の満足度について 3 年生と専攻科生に回答を求めた。

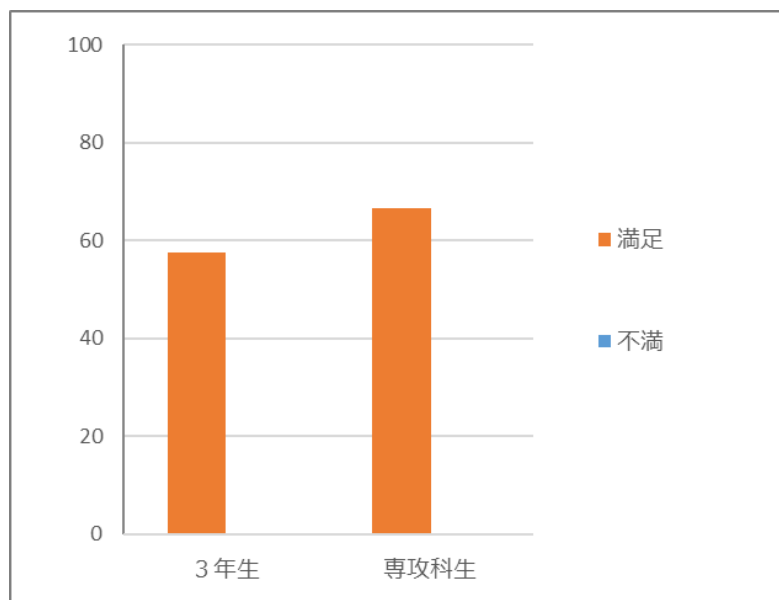
全体としては、「満足」と「ほぼ満足」と回答した学生が約 6 割で、それ以外はすべて「特に不満はない」であり、「少し不満」と「不満」はいなかった。前回と比較すると、「満足」と「不満」が減少し、「特に不満はない」が増加している。

学年別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は 3 年生 57.6％、専攻科生 66.7％で、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は 3 年生、専攻科生とも 0.0％であった。満足度は 3 年生に比べても専攻科生で高かった。

就職対策に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 38]奨学金制度に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 38 表 全学年の選択肢別割合（％）

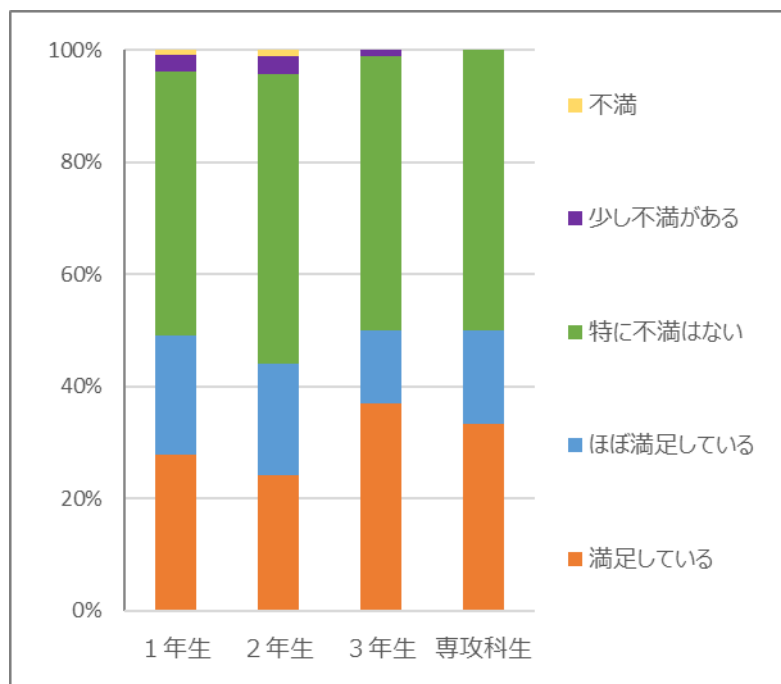
回答内容	今回	前回
1. 満足している	29.7	25.6
2. ほぼ満足している	18.1	17.7
3. 特に不満はない	49.1	52.2
4. 少し不満がある	2.4	1.9
5. 不満	0.7	2.5
合計	100	100

この設問では、奨学金制度の満足度について回答を求めた。

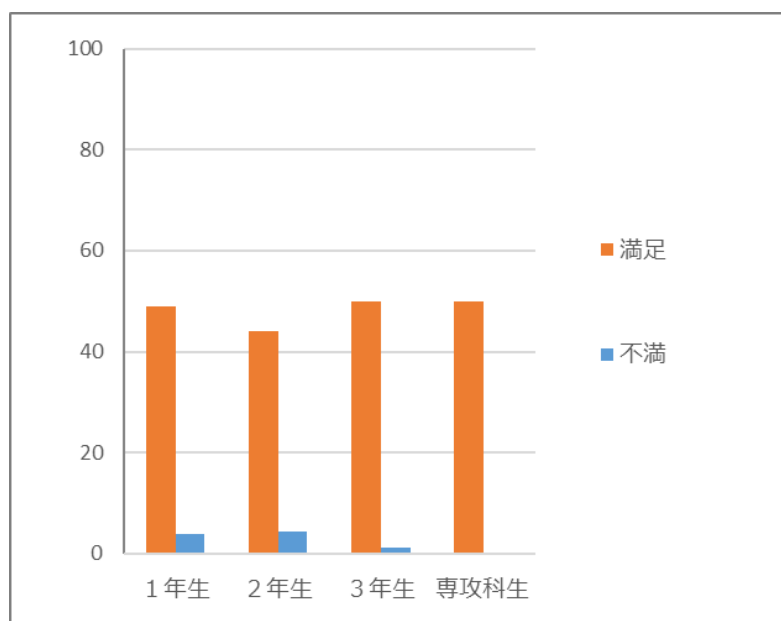
全体としては、「特に不満はない」が約 5 割いる。次いで、「満足」、「ほぼ満足」が続き、「少し不満」、「不満」は少ない。前回と比較しても、「不満」は減少したが、傾向は殆ど変わっていない。

学年別に見ると、いずれの学年も「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は、1 年生 49.0％、2 年生 44.0％、3 年生 50.0％、専攻科生 50.0％で、満足していたのはすべての学年で約半数であり、2 年生ではやや低い傾向である。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1 年生 3.8％、2 年生 4.4％、3 年生 1.1％、専攻科生 0.0％で、満足度に比べて大幅に低い傾向にある。

奨学金に対する満足度



満足度の比較（％）



[問 39]短期大学部事務室の窓口対応・サービスに関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ
- 6.

問 39 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 満足している	33.8	28.2
2. ほぼ満足している	20.8	20.9
3. 特に不満はない	43.3	44.9
4. 少し不満がある	1.0	4.1
5. 不満	1.0	1.9
合計	100	100

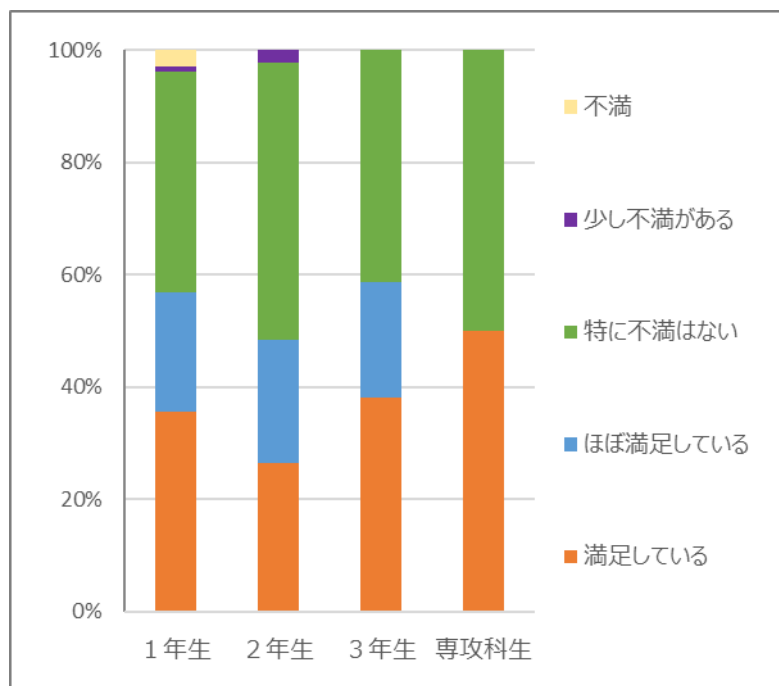
この設問では、事務サービスの満足度について回答を求めた。

全体としては、約半数の学生が「特に不満はない」と回答した。次いで、「満足」、「ほぼ満足」と続き、「少し不満」、「不満」は極わずかである。

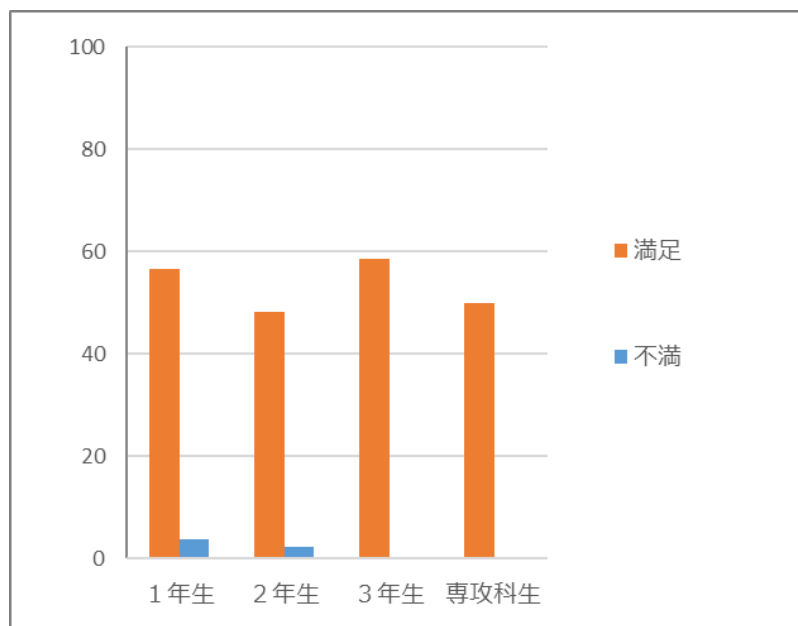
前回と比較すると、「少し不満」、「不満」学生の割合は減少した。

学年別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を加えた「満足」の割合は、1年生 56.7％、2年生 48.4％、3年生 58.7％、専攻科生 50.0％で、2年生でやや低い。一方、「少し不満がある」と「不満だ」を加えた「不満」の割合は、1年生 3.9％、2年生 2.2％、3年生 1.0％、専攻科生 0.0％で、満足度に比べると不満の割合は大幅に低い。

窓口サービスに対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 40]個人で情報発信しているメディアについて利用しているものを選択してください。(複数回答可)

1. 交流系 SNS (Facebook、X(旧 : Twitter)、mixi、LinkedIn、Google+ 等)
2. メッセージ系 SNS (LINE、Viber、WhatsApp、Wechat 等)
3. 画像系 SNS (Instagram、Snow 等)
4. 動画共有サイト (YouTube、TikTok、ニコニコ動画等)
5. ブログ (アメーバブログ、Seesaa ブログ等)
6. ホームページ
7. その他
8. どれも利用していない

問 40 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 交流系SNS (Facebook、X(旧Twitter)、mixi、LinkedIn、Google+ 等)	19.7	20.5
2. メッセージ系SNS (LINE、Viber、WhatsApp、Wechat等)	30.9	30.7
3. 画像系SNS (Instagram、Snow等)	29.8	30.2
4. 動画共有サイト (YouTube、TikTok、ニコニコ動画等)	15.1	14.4
5. ブログ (アメーバブログ、Seesaaブログ等)	0.0	0.2
6. ホームページ	1.0	0.9
7. その他	0.0	0.0
8. どれも利用していない	3.5	3.1
合計	100	100

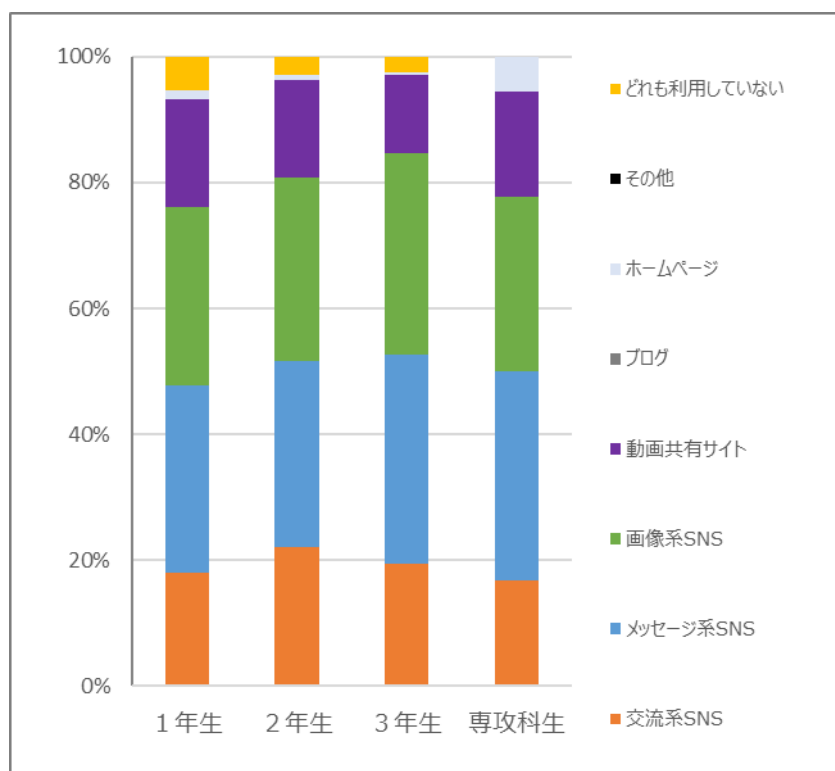
この設問では、個人で情報発信しているメディアについて回答を求めた。複数回答を可としているため、回答総数は 773 で、内訳は 1 年生 268、2 年生 244、3 年生 243、専攻科 18 であった。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体的には、「メッセージ系」と「画像系」の利用が高い。次いで「交流系」、「動画共有サイト」と続く。また「どれも利用していない」もいる。

前回と比較しても傾向はほとんど変わっていない。

学年別の利用用途は、「交流系」が 1 年生 17.9%、2 年生 22.1%、3 年生 19.3%、専攻科生 16.7%、「メッセージ系」が 1 年生 29.9%、2 年生 29.5%、3 年生 33.3%、専攻科生 33.3%、「画像系」が 1 年生 28.4%、2 年生 29.1%、3 年生 32.1%、専攻科生 27.8%である。「交流系」、「メッセージ系」、「画像系」ではどの学年も同程度の利用状況であった。

個人発信メディアの利用用途



[問 41] タバコを吸いますか。(複数回答可)

1. 吸わない
2. 紙巻きタバコを吸う
3. 加熱式タバコを吸う
4. 電子タバコを吸う
5. 水タバコを吸う
6. 無煙タバコを吸う
7. 以前は吸っていたが、やめた

問 41 表 全学年の選択肢別割合 (%)

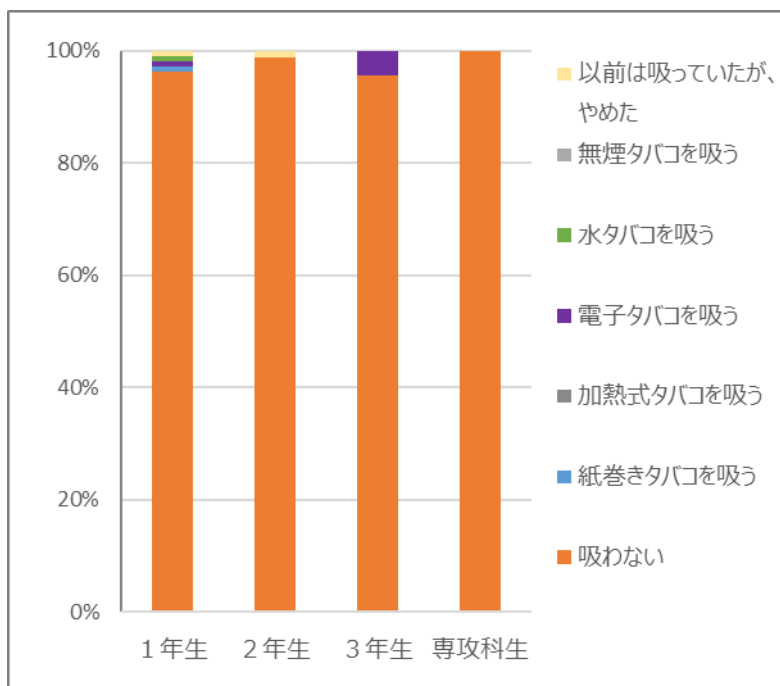
回答内容	今回	前回
1. 吸わない	96.9	96.2
2. 紙巻きタバコを吸う	0.3	0.6
3. 加熱式タバコを吸う	0.0	0.6
4. 電子タバコを吸う	1.7	0.9
5. 水タバコを吸う	0.3	0.0
6. 無煙タバコを吸う	0.0	0.0
7. 以前は吸っていたが、やめた	0.7	1.6
合計	100	100

この設問は、たばこを吸う習慣について回答を求めた。

全体として、「吸わない」学生が96.9%と圧倒的に多いが、「以前は吸っていたが、やめた」学生が0.7%いる。また、現在も「紙巻きタバコ」、「電子タバコ」、「水タバコ」を吸っている学生が全体で2.3%存在している。

前回の調査では、「加熱式タバコ」を吸っている学生がいたがいなくなり、今回は「水タバコ」を吸っている学生がいる。学年別では、「やめた」学生が、1年生 1.0%、2年生 1.1%、3年生 0.0%、専攻科生 0.0%いる。また、現在も何らかのタバコを吸っている学生は、1年生 2.9%、2年生 0.0%、3年生 4.3%、専攻科生 0.0%である。

タバコを吸う習慣



[問 42]大麻、覚せい剤、危険ドラッグ等の薬物について選択してください。(複数回答可)

1. 使用したいと思わない
2. 使用してみたいと思ったことがある
3. 友人・知人で使用した人を見た（または聞いた）ことがある
4. 使用について誘われたことがある

問 42 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 使用したいと思わない	98.6	96.9
2. 使用してみたいと思ったことがある	0.3	0.6
3. 友人・知人で使用した人を見たあるいは聞いたことがある	1.0	1.9
4. 使用について誘われたことがある	0.0	0.6
合計	100	100

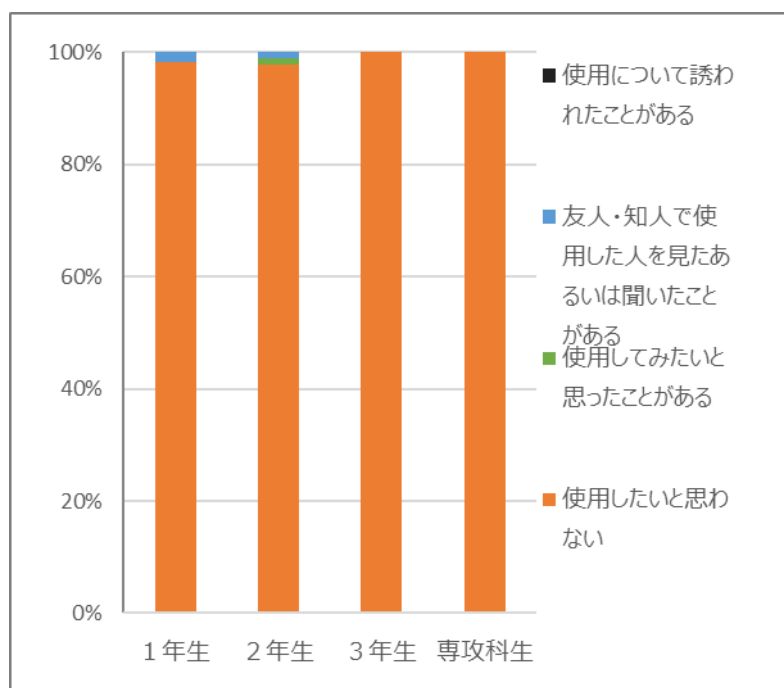
この設問は、大麻・覚醒剤などの薬物の使用についてどう思うかおよび経験の有無について回答を求めた。

全体としてみると、ほとんどの学生は「使用したいと思わない」と回答している。「使用してみたいと思ったことがある」と回答した学生は僅かにいたが、「友人、知人で使用した人を見た（または聞いた）ことがある」が 1.0%認められた。

前回と比較すると、「使用したいと思わない」学生が増加し、「使用してみたいと思ったことがある」、「友人、知人で使用した人を見た（または聞いた）ことがある」、「使用について誘われたことがある」学生が減少している。

学年別にみると、「使用したいと思わない」学生の割合が、1年生 98.1%、2年生 97.8%、3年生 100.0%、専攻科生 100.0%であり、1～2年生では 100.0%となっていない。学生への適切な指導が必要と考える。

大麻・覚せい剤などの薬物について



[問 43] ボランティア活動に参加したことがありますか。

1. ある
2. ない

問 43 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. ある	35.8	39.9
2. ない	64.2	60.1
合計	100	100

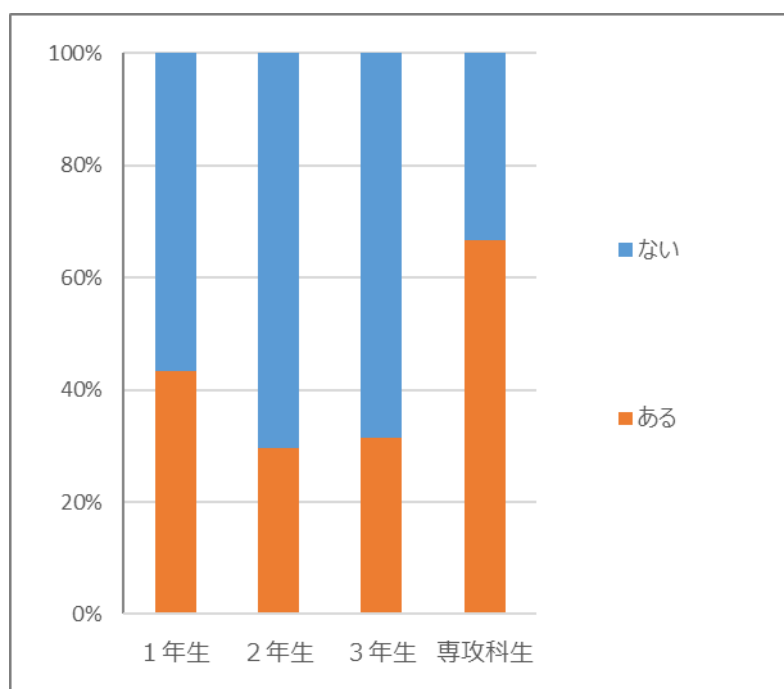
この設問では、ボランティア経験の有無について回答を求めた。

全体としては、ボランティア活動に参加した経験の「ある」学生が約 35%、「ない」学生が約 65%である。

前回と比較すると、同様の傾向を示しているが、「ある」学生が減少し、「ない」学生の増加がある。

学年別にみると、ボランティア活動経験者は、1年生 43.3%、2年生 29.7%、3年生 31.5%、専攻科生 66.7%である。経験者は専攻科生に多く、1～3年生では 30～40%程度である。

ボランティア経験の有無



[問 44] ボランティア活動に参加しようと思いますか。

1. 参加しようと思う
2. 参加しようとは思わない

問 44 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 参加しようと思う	42.0	44.0
2. 参加しようとは思わない	58.0	56.0
合計	100	100

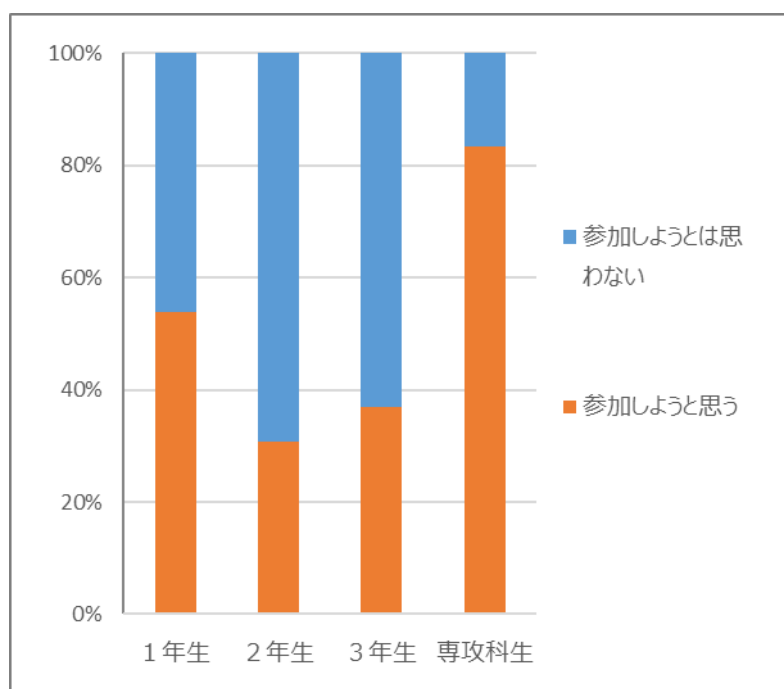
この設問では、今後ボランティア活動に参加したいかどうかについて回答を求めた。

全体としては、「参加しようと思う」学生が約 4 割で、「参加しようとは思わない」学生が約 6 割である。

前回より「参加しようと思う」学生が減少している。

学年別にみると、ボランティアへの「参加意思のある」学生は、1 年生 53.8%、2 年生 30.8%、3 年生 37.0%、専攻科生 83.3%で、専攻科生で多く、2、3 年生では 3～4 割と少ない。

ボランティアへの参加意思



[問 45]過去にハラスメントをどこかで受けたことがありますか。(複数回答可)

1. 学外（アルバイト先も含む）
2. 通学途中
3. 学内のクラブ・サークル
4. 学内の教室
5. 学内のその他の場所
6. 受けたことがない

問 45 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 学外（アルバイト先も含む）	7.0	9.7
2. 通学途中	0.7	1.3
3. 学内のクラブ・サークル	0.3	0.0
4. 学内の教室	0.3	0.6
5. 学内のその他の場所	0.3	0.9
6. 受けたことがない	91.3	87.5
合計	100	100

この設問では、過去にハラスメントをどこで受けたかについて回答を求めた。複数回答が可能であり、回答者数は1年生 106、2年生 93、3年生 95、専攻科生 6で、総回答者数は300である。図は各学年における総回答者数に対する割合を示す。

全体としては、ハラスメントを「受けたことがない」学生が約9割で、受けたことのある学生は約1割である。受けた学生では、「学外」の割合が最も多く、次いで「通学途中」である。

前回と比較すると、「学外」、「通学途中」、「学内の教室」、「学内のその他の場所」で受けた学生が減少し、「学内のクラブ・サークル」が増加しているが、傾向は概ね変わらない。

学年別に比較すると、「受けたことがない」学生は1年生 91.5%，2年生 95.7%，3年生 88.4%，専攻科生 66.7%で、1～3年生では約9割の学生は受けていないが、専攻科生はそれに比べると少ない。

ハラスメントの経験

